

わが子のあゆみ



2024.3
No.480
春風号
第75巻5号

3

蛭川伝統芸能【杵振り踊り・お囃子】

蛭川では、安弘見（あびろみ）神社例大祭に奉納される、杵振り踊り（県重要無形民俗文化財）が毎年4月16日に一番近い日曜日に行われます。伝統ある杵振り踊りを継承するために、伝統芸能保存会の方々から指導をしていただき、体育大会で披露します。

男子は赤・黄・青の市松模様の白をかたどった縦長の笠をかぶり、手作りの杵を使って踊り、女子は浴衣を纏い、篠笛を吹きます。地域に根付いた伝統芸能に携わることで、郷土愛を育んでいます。



なかつがわしりつひるかわちゅうがっこう
中津川市立蛭川中学校

「ちろいしほぎわらじゅうがっしん」

下呂市立萩原小学校

住所 〒509-2517
下呂市萩原町萩原1101番地
TEL 0576-52-1600
児童数 337名



学校のたからもの①
全教育活動で育む
「願いをもって考え続ける子」



学校の教育目標

自主 連帯 創造

〈地域の自然や風土〉
古くは飛騨街道の宿場町として栄えた萩原。下呂温泉の近く、御前山の麓、飛騨川が流れる下呂の山々に囲まれた自然豊かな地に萩原小学校があります。明治6年に民家を校舎として創設、昭和38年に近隣の西上田小学校と羽根小学校が統合されました。この令和5年度で創立150周年を迎えました。昨年度までに約2年間におよぶ大規模改修工事が終了し、木の温もりも感じられる明るい校舎に生まれ変わりました。全ての教室にプロジェクターとグレーボードを配置し、ICT機器を活用する環境が整い、子どもたちの明るい声が響く学舎となっています。



校舎



6年生 家庭科「洗濯」の授業の様子
汚れがよく落ちる洗い方を追究しました。

萩原小学校で育てたい資質・能力を「願いをもって考え続ける力」と設定し、全教育活動において取り組んでいます。発達段階に応じて、児童が「なりたいたい自分」について向き合いながら、より良い自身になれるように目標をもって授業や特別活動に向かっています。「最高学年として下級生に頼られたい」「言葉遣いに気をつける自分」「学校みんなを幸せにする自分」など、児童それぞれに願う姿を決め、定期的に担任の先生と共に振り返りながら、目標を再設定しつつ、どうしたら願う姿になれるのか考え続けながら自己実現を目指します。

授業においても、課題追究意欲を大切にしながら、児童が主体的に「考え続ける」授業作りを励んでいます。自分でじっくり考える、仲間確かめて考え直す、より良い考えを求めて学び続ける楽しさを味わうことを目指しています。

学校のたからもの②

学校運営協議会が推進する「コミュニケーションイベント」



1年生 生活科「おもちゃ作り」の授業
交流する園児のために、どうしたらよりおもしろく遊べるかを工夫しました。

萩原小学校運営協議会は、教育活動や学校の安心安全について、学校の願う姿を共有し、共にできることを実行しようと様々な活動を実施しています。その活動の中で、ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもを育みたいと、これまでにイベントを立ち上げて実践してきました。

令和4年度には「萩原をめぐってクイズに

チャレンジ!!」と題して、地域の方にも協力していただき、萩原の歴史や名所を回るオリエンタリングを実施しました。子ども同士、または親子で、頭を使ってクイズに挑戦しながら楽しく参加することができ、ふるさと萩原に興味をもつきっかけになりました。また、令和5年度には「弟子入り体験」と題して、地域の企業や事業所の方にお世話になり、職業体験を実施しました。建設業において、仕事の説明を聞いたり、実際に重機に乗ったりドローンを操作したりする体験をすることができました。

また、カフェで接客業を体験したり、ネイルアートに挑戦したりする児童もいました。いずれの場所においても普段はできない体験を行い、地域の大人と接することで、さらさらとした笑顔を見せていました。大人や将来への憧れをもつきっかけになりました。

今後、萩原地域に生きる「誇り」に触れ、萩原に「愛着」をもてる体験をさらに企画していきたいと思えます。

学校のたからもの③

保護者の工夫が光る「親子活動」

萩原小学校PTAでは、学年親子活動を設定しています。これは学校で企画するのではなく、PTA学年委員、保護者の方々が中心になって、親子で共に行う活動を考えて実施しています。残念ながらこの数年間はコロナ禍であり、縮小傾向でした。しかし、今年度から活動制限もなく親子一緒にできることを計画し、実施することができました。

なかでも、1年生は親子で風鈴を絵付けして、商店街に飾ってもらう活動を行いました。2年生は体育館で紙飛行機大会を行いました。6年生は、日曜日に環境奉仕作業を親子で行いました。数年間でできなかった側溝の泥上げや、窓ふきなど、親子で汗を流しました。他の学年もその他の活動を計画中です。日常的な忙しさの中ではコミュニケーション不足になりがちですが、このような機会が親子のつながりを見直したり深めたりするきっかけになることを願っています。



弟子入り体験
建設会社でドローン操縦



弟子入り体験 カフェで接客体験



2年生 「親子紙飛行機大会」
作った後は、体育館で飛ばして滞空時間を競いました。

「萩原をめぐってクイズにチャレンジ」

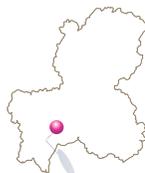


6年生「親子奉仕作業」で側溝の泥上げ
暑い中親子で汗を流して、校舎を美しい状態にしてもらいました。

「みずほしりゅうじょうがっこう」

瑞穂市立西小学校

住所 〒501-0302
瑞穂市居倉389番地
TEL 0581-328-2238
児童数 181名



学校の教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる力のある子
〜感謝する心を忘れず、
成長と可能性を広げるために挑戦する子〜

〈地域の自然や風土〉
長良川と揖斐川にはさまれた瑞穂市の中で北西に位置する西小学校は、根尾川・揖斐川を間近に望む田園地帯です。校区の南部を中山道が通り、倭姫命が伊勢神宮の元となる天照大神の御霊代を祀る伊久良河宮を築いたという伝説が残る土地です。現在では水田が広がり、富有柿の発祥の地として柿の生産が盛んである一方で、バラなどの園芸農業も盛んな地域です。

明治6年に創立した「實学学校（かんがくがっこう）」を始まりとする西小学校は、令和5年6月に創立150周年を迎えました。学校の教育目標は、「豊かな心を持ち、たくましく生きる力のある子」〜感謝する心を忘れず、成長と可能性を広げるために挑戦する子〜です。目標をもち、目標に向かって努力し、その姿を支えてくださった方々へ感謝する心を忘れない児童を育てています。



校舎



税務署の方による租税教室で、税金のことを考える児童

学校のたからもの① 聞き上手な児童

ゲストティーチャーとして来ていただく講師の方は口をそろえて、「話していると気持ちよくなって、つい話し過ぎてしまいました。」と言われます。それは、「児童が真剣に話を聞いていて、反応がよく、話を聞いてくれているという手ごたえを感じる。」からだそうです。その上、「話が終わってからでも、たくさん質

学校のたからもの② 課題にひたむきに向かう児童

どの学年の授業を見ても、児童は課題に対して一生懸命取り組んでいます。分からなくても諦めません。教科書やノートで今までに習ったところを振り返ってみたり、友達に相談したりして、分かるまでとことん課題に向かいます。ペア、グループや全体で意見交流する時は、自分の意見をきちんと話します。同時に、友達の意見を理解しながら聞きます。このことで、自分の意見に深まりが出ます。

学校のたからもの③ 児童のために活動する PTA&地域の方

西小学校の一日は、児童と地域の方が気持ちのよいあいさつを交わって始まります。地域の方は、コロナ禍から健康チェックカードの点検をさせていただいていましたが、カードがなく



三人で意見交流する児童



社会見学で工場の方から説明を受ける児童



校門であいさつをする児童と地域の方



国語の授業で挙手する児童



草刈りや側溝の土を出す作業をするPTA、児童、地域の方

問や意見が出て、聞いていただけでなく、内容を理解しながら聞いてくれた。」と、改めて児童の素晴らしさに感心されます。先日、社会見学に出かけた工場で見学させていただいた方に「9年前の工場見学の立ち上げから案内係をしていますが、案内して一歩気持ちよかったです。」と聞いていただきました。

講師の方は、聞き上手な児童の前に、想定以上の話までしてしまいます。その結果、児童はよりたくさん学ぶことができます。

なつてからも、あいさつを継続して下さっています。加えて、毎月1日はあいさつのまち瑞穂市の青少年育成市民会議が定めた「あいさつ運動の日」「地域安全の日」として地域の方々が交差点や学校の校門のところで、毎月24日は「にしの日」として、PTA役員の方があいさつをしながら児童を見守っていただいています。新型コロナウイルス感染症の影響もあって、あいさつの声がなかなか出せなかった児童が、今では相手を見て少し頭をべこりとしながらはつきりとした声であいさつができるようになってきています。

こんな素敵な話も聞きました。地域の高齢者の方が、朝と帰りに家の前を通っていく児童へあいさつをしてくださっています。その方は、「最初は、なかなか声が出なかったけれど、今ではあいさつができるようになってきたよ。」

「あいさつを返してくれると、心が通った感じになって気持ちがいいから。これからも、元気なうちはずっとあいさつをするよ。」と話してみえました。私たちが知らないところでも、地域の方が児童を支えてくださっているのだなと実感しました。

その他にも、PTAと地域のボランティアの方が協力して、緑豊かな広い学校の敷地内を、休日に学校へ集まり、草刈りや木の剪定、水泳の授業の前にはプール掃除をしてくださっています。暑い中、児童のために一生懸命草を刈り、環境整備をさせていただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。

以上、西小学校の宝物の一部を紹介しました。今後も、学校とPTAと地域が協力して、学校の教育目標にもある、豊かな心を持ち、たくましく生きる力のある児童を育てていきます。

揖斐川町立春日小学校

「いびがわちまうじつかすがしきつがいつじ」

● 住所 〒503-2503
 揖斐郡揖斐川町春日川合1677-2
 ● TEL 0585-57-2120
 ● 児童数 11名



〈地域の自然や風土〉
 揖斐川町春日地区は岐阜県西部にあり、地区全体が山地です。近々の山々から流れ出た川が学校の近くで合流し、粕川となって濃尾平野に流れ出ています。雨や雪がよく降る地域ですが、「岐阜のマチ」に「チュ」と言われる天空の茶畑のお茶や薬草が有名です。
 もともと春日地域にあったいくつかの小学校が一つになり、現在の春日小学校となりました。自然豊かで歴史ある地域で、地域の皆さんに温かく見守られています。



校舎



地域の方のご協力で毎身体験しているたけのご掘りの様子



学校の教育目標

豊かな心で たくましく生きる子
 かんがえて学習する子
 すすんで実行する子
 がんばって運動する子

全校児童11人という小規模校の強みを生かした宝物がいっぱいです。
学校のたからもの①
地域の特色を生かしたふるさと学習

ふるさと春日のよさに触れる教育課程を編成し、「春日」でこそできる教育「春日」でもできる教育」をキーワードにふるさと学習を行っています。
 春のたけのご掘りや茶摘み体験、薬草の種まき、薬草を使っての草木染めなど、ふるさと先生を招いて、全校で体験学習を行っています。また、3年生以上は、総合的な学習の時間に春日の自然や歴史について学んでいます。こうした学習活動を通して、子どもたちは、先人から受け継がれてきた春日の自然や歴史文化のよさに気付き、そのよさを多くの人に伝えたいという思いをもつようになりました。

今年度は、地域の「こいやーかすがまつり」で、子どもたちがフリックボード式アンケートを来場者の方に協力していただきました。調査分析結果をもとに、春日モリモリ村をより魅力あるものにするための提案をふるさと先生として総合的な学習の時間にお招きし

た春日モリモリ村の方々にする事ができました。また、近隣地区の小学校と盛んに交流しています。互いの地域のよさをオンライン授業や実際に来校し合って交流を深めています。さらに、関市立板取小学校ともオンライン授業でお互いの自然や歴史文化のよさを交流しながら、自分たちができることについても意見交流をしています。

学校のたからもの②
主体的な活動を目指して
さざれ石活動と
サーキットトレーニング

全校を3つの縦割り班「さざれ石班」として、毎日いろいろな活動を行っています。給食当番や掃除分担も「さざれ石班」で行い、一人一人が自分の役割に責任をもって活動しています。

毎週金曜日には「さざれ石遊び」が中休み（仲良しタイム）に位置付いています。1学期は、高学年が遊びを考えて提案してきました。調べ学習をして、全校で楽しめる遊びやみんなが楽しめるためのルールを工夫してきました。なかには、みんながしたことのない遊びもあり、ルール説明に戸惑っていました。けれど、活動後に反省会を行い、より楽しめるためのルールづくりについて意見交流し、工夫改善をしていました。2学期は、下学年から遊びのリクエストを聞いて計画、運営していきます。「さざれ石遊び」の中でトラブルが起きると、高学年がルールについて新しい提案をして、「全校帰りの会」や「児童集会」の場で確認し、主体的に活動しています。



ふるさと学習で天空の茶畑でのお茶摘みの様子



ふるさと学習で薬草の種まきをする様子



どんな色に染まるかな薬草で草木染



「こいやーかすがまつり」で薬草について発表する様子



総合的な学習の時間にふるさと先生にアンケート結果からの提案をする児童



板取小学校とのオンライン交流の様子



「さざれ石遊び」の様子
 全校児童が全力で遊びを楽しみます

学校のたからもの③
一人一人が誓いを立て
交通事故無事故記録11000日

春日小学校では、令和3年に交通事故無事故記録1万日を達成しました。それ以降も交通事故無事故記録を伸ばし続けています。年度初めには、児童一人一人が「無事故へ向けての交通安全の誓い」を立て、心新たに取り組みました。

また、こうした記録を支えてくださっているのは、地域の安全サポーターの皆さんや春日交番の交番長さんです。サポーターさんは、バス通学をする子どもたちの登下校時、バス停から自宅までの安全確認をしてくださっています。また、交番長さんは児童の下校時に見送りや見守りをしてくださっています。

「みずなみしりつみずなみちゅうがっこう」

瑞浪市立瑞浪中学校

住所 〒509-6101
岐阜県瑞浪市十岐町790番地の1
TEL 0572-68-4195
生徒数 33名



学校のたからもの①

あいさつで笑顔いっぱい運動

本校ではPTA活動の一環として、あいさつ運動を継続的に行っています。昨年度は、地域で子供たちを育てていくことを実践していることと瑞浪中学校区幼小中一貫教育推進協議会と連携し、決められた役員の方だけではなく、地域の様々な方にも声をかけ参加していただき、実施しました。本年度は、「コミュニケーション」のスタートにあたり、あいさつ運動を瑞浪小中学校学校運営協議会のメイン活動として位置付け、活動の母体を学校から学校運営協議会へと移行し、より地域を巻き込んだ活動として実践しました。10月16日(月)の活動の際には、保護者や小中学校の職員はもろろん、区長会や交通安全協会、民生委員会などの協力も得て、地域をあげて実施することができました。また、まちづくり推進協議会の協力により、生徒会役員が青パトに乘車して瑞浪地区をまわるなどして、町中にあいさつの声が響き渡りました。この活動を通して、学校と地域が協働して子供たちを育てることができ、更には地域の方と触れ合うことで、瑞浪地区への愛着が深まることにつながると考えています。



朝早くから瑞浪市じゅうに、爽やかなあいさつが、飛び交いました。



学校の教育目標

みずからの力をふりしぼる
なかまとともにみがきあげる

〈地域の自然や風土〉
瑞浪中学校は、岐阜県の南東部、濃尾平野の北東端に位置しています。校区は室町時代に創業したといわれる美濃焼を中心に発展してきた商業都市です。昔から近くで良質な粘土が採取できるため、美濃焼の生産が盛んであり、1300年の歴史を誇ります。市内各所に陶磁器工場や関連工場が多く存在しており、またより多くの人に美濃焼のよさを知ってもらおうと、「ちやわん屋瑞浪」といった施設をつくり、若者などにも美濃焼のよさを広めています。



校舎



あいさつ運動の際、各諸団体や保護者などにチラシを作成し配付しました。



「語る会」では、3年生が自分の経験談を踏まえて「勉強方法」「力を入れたこと」「部活」など様々なことを後輩たちに語りました。

学校のたからもの②

思いやりあふれる生徒会活動

本校の本年度生徒会スローガンは「**楔**」です。このスローガンには、物と物のつながりを安定させる楔のように、人と人との繋がりをより深く強くしていきたいという願いが込められています。この考えの根底にあるのは、瑞浪中学校に代々受け継がれてきた「思いやり宣言」の精神です。生徒会では、このスローガン達成に向け、「よさみくじ」「分団清掃活動」「語り合う会」などの取組を行いました。「よさみくじ」とは、くじ引きで引いた仲間のよさを見つけるものです。「仲間のよさや個性を認め合うことで温かい雰囲気のある学校にする。」という願いのもと、どの子にも目を向け、たくさんの仲間のよさを見つけました。「分団清掃活

学校のたからもの③

感動を与える合唱

瑞浪中学校の生徒は、歌を歌うことが大好きです。合唱練習の後や下校時には、合唱曲を口ずさみながら歩く姿も見受けられます。この姿があるのは、合唱発表会に向けてクラスの団結力を高めながら練習に打ち込んできた一人一人の思いや姿があるからです。コロナ禍でここ数年合唱発表会を中止してきましたが、昨年度規模を縮小する形で漸く復活させることができました。本年度はコロナ禍以前のように、市の総合文化センターで歌声を披露することができました。毎日の朝の会や帰りの会で練習してきた成果を、十分に表現できたようで、生徒は自分たちの頑張りが歌声に、とても満足していました。「生徒の歌声にとても感動しました。来年もぜひ来たいです。」という感想を保護者からいただきました。今後とも仲間と深くつながり、人の心を動かすような歌声が響き渡る瑞浪中学校であることを楽しみにしています。



「よさみくじ」の活動では、仲間の「よさ」をたくさん見つけることができました。



朝の会や帰りの会の時間には、学級合唱レベルアップに向け、クラス一丸となって、練習に取り組みました。



合唱発表会当日は、クラスの目標達成に向け、心を一つにして歌を歌いました。

1月号を読んで

「わが家の宝物」を読んで、わが家と同じだと思いました。宝物とは「物」ではなく、「想」だと思いました。(Tさん)

「私が出会った1冊の本」は、知らない本を知るきっかけとなり、気になった本は図書館で借りて読んでいます。(Oさん)

「お試しクッキング」いつも楽しみにしています。豆乳根菜汁は、味噌と豆乳がマッチしてとても美味しかったです。味噌を減らして美味しく食べられたので減塩になりました。(Kさん)

西濃学園のことをはじめて知りました。学校は一つではないということは、子どもも親も安心です。子どもの将来を大切に考えてくれることもいいなと思いました。(Mさん)

保護者から先生に贈るメッセージを読むと、日頃の感謝を改めて想います。いつもありがとうございますの精神でいます。(Hさん)

笑顔になれる約束事が素敵だなと思いました。約束といえば個人に対しての事が多そうですが、家族全員で〇〇するといったように、みんなで取り組み、じゃんけんで役割を決め、ゲーム感覚でできるところに魅力を感じました。(Tさん)

岐阜市立岩野田中学校は、昨年度より保健体育の授業を男女混合でされているとのこと、具体的にどんな授業をしているのかという事と子どもたちの本音を聞きたいです。(Hさん)

「笑顔になれる約束事」熊倉家の約束、大切な事で必要な事と思いました。具体的にSNS禁止は、逆に何がOKなのか知りたいです。子どもが大きくなっていく時、大切な事に気付かせていただきありがとうございます。(Hさん)

「みんな、いっしょに」の盲学校・高等部生徒さんが体験した鵜飼を楽しむ内容に関心をひかれました。鵜が鮎をとり、鵜匠がそれを口からとる様子。見ることに私たちは集中してしまいが、視覚以外の肌から感じる事、音や匂いとその他五感からもっと様々な事を知ることができ、それを知らせて欲しいと期待されてみえました。違う角度から見ると新たな発見ができるんですね。(Sさん)

進路選択で大切にしたいことを拝読させていただいて参考になりました。4月から息子は中学生になります。反抗期など難しい年頃です。すぐに進路選択で悩む時期がやってきます。親として、過度に干渉せず、時には相談相手になり、うまく距離感を保ちながら、見守る姿勢でいこうと思っています。(Iさん)

もくじ わが子のあゆみ 2024.3 No.480 春風号

表紙 中津川市立蛭川中学校

1 学校のたからもの

下呂市立萩原小学校／瑞穂市立西小学校
揖斐川町春日小学校／瑞浪市立瑞浪中学校

11 特集 第4分科会講演

「日本代表を育成する家庭や学校の支援(抜粋)」
前ホッケー女子日本代表 さくらJAPAN

17 みんなで家庭教育!

西濃県事務所 振興防災課

18 先生!ありがとうございます!

保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ

19 「多様性尊重の教育」

みんな、いっしょに 安田 和夫

21 保健室ノート 赤塚 真美

23 私の先生 平山 純暉

25 わが家の宝物 河田 剛延

26 リレーエッセイ 土屋 まりえ

27 子育て半生記 山田 秀敏

29 楽しい読み聞かせ 北方町立南学園PTA

31 親の背中 伊藤 光孝・中垣 野歩

33 私が出会った1冊の本【続63】

長瀬 浩平・伊藤 淳

35 子の思い 鳥居 桜子・林 美怜・村田 柗陽

親の願い 中島 健太郎・右高 英一

教育の窓 渡辺 仁・松原 元樹

40 話そう!語ろう!わが家の約束 古田 絵里・鈴木 奈保

41 親子ではてな

42 お試しクッキング

岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

43 ふるさとの伝承 各務原市立稲羽東小学校

45 ざらり!キッズ! 養基小学校養基保育所組合立養基小学校

47 夢中!熱中!我がが部活 多治見市立南姫中学校

49 私たちのPTA 瑞穂市立生津小学校PTA

PTA^{hour}24 保険のお勧め



PTA24保険は、岐阜県PTA連合会が保険契約者となる団体契約です。お申込人となれる方は岐阜県PTA連合会に所属する国公立小学校・中学校PTAの会員(児童・生徒の保護者、教職員の方)に限ります。PTA会員でない方、私立校、岐阜県外校、特別支援校に進学・転校される場合は、継続も含め加入いただけません。

PTA24保険の特長

1. 岐阜県PTA連合会の団体割引30%、優良割引20%が適用されます。
2. 学校のタブレットを過って壊したことによる賠償責任も補償します。
3. 中学校卒業まで自動継続です。毎年の手続きは不要です。
4. 加入が義務づけられた自転車による損害賠償責任に対応しています。
5. 「賠償責任保険加入済」自転車貼付用ステッカーとモバイルクリーナーを差し上げます。



ご加入方法

スマホ・タブレットよりアクセスし、入力してください。
保険の詳細もご覧いただけます。
お通帳をお手元に、所要時間は約5分です。



保険期間

2024年4月6日 PM 4:00~
2025年4月6日 PM 4:00

申込み締切日

2024年4月5日

締切日に間に合わない方は、上のQRコードより補償期間、保険料をご確認ください。

「日本代表を育成する家庭や学校の支援(抜粋)」

前ホッケー女子日本代表 さくら JAPAN

Q「オリンピックの感想などを少し伺いたいと思います。」

○オリンピックは、私たちは金メダルを目指すと行って出場したんですが、結果は予選敗退ということで、すごく残念で、正直今も少し引きずっている部分があるんですが、やはり、ああいう大きな舞台でたくさんの方に応援



清流の国ぎふ大会
副実行委員長 阿部さん

されて、その場に立てて試合が出来るということ、自分にとって大きな財産ですし、本当に自分が思っている以上に応援されていたんだなということ帰ってきて改めて感じたので、すごく感謝の気持ちでいっぱいです。

○私たちにとってはとても悔しい試合で、本当に思い出すだけで悔しさで一杯というのが正直な所なんです、オリンピックという舞台は、やはり今までテレビで見ていた以上に素晴らしい所だなというのすごく感じましたし、たくさんの方が関わってくれていてこの大会が実現されているということもすごく実感して、



前ホッケー女子日本代表 さくら JAPAN

ないかという誘いがあったてに見に行った時に、体験で、多分やる予定ではなかったんですけど、名簿で名前言ってと言われた時に、流れて行って入っちゃったという感じなんです。そのきっかけがなかったら今ここに居なかったたので、本当にありがたかったです。

Q「皆さん小学生くらいの時からスタートということやってらっしゃるんですね。やっていく中で、日本代表になるうとかオリンピックに行くうという決意を強くしたタイミングとかそういった時期はありましたか？」

○私は高校生の時に、このグリーンスタジアムで練習していたので、その時に隣のコートで今の代表選手の方が合宿をされていて、



それを横で見ていたのがきっかけで目指すようになったんですが、オリンピック出場という目標は、自分にとって

Q「ものすごい練習量だったでしょうが、努力というのは勿論あったと思うんですけど、小学校から始められて、高校の時とかというタイミングです、勉強というものに関してはどう捉えていますか？」

大きすぎる目標だったので、誰にも言えずに、それくらい大きい目標で、本当に横で見ている先輩達のごさというの、見ていて分かるほどだったので、言えない目標でした。

○勉強の方は、私は高校でホッケーやって、その時は、商業科で学んでいたんですけど、そこから大学行って、特別支援学校とか、教師の資格取るうと思っかけていたんですけど、試合とかが入ってきて、どっちを優先するかとなった時に、「自分はホッケーをしたい！」となったので、その時に勉強よりもホッケーを優先してしまっただけから、目指していた勉強の方向の願いは叶わなかったです。

○一番多分聞いてはいけない選手だと思うんですけど、今思えることは、やっぱりどちらも出来

それだけオリンピックという場所には価値があるんだなと感じました。

Q「浅野市長、各務原市民の皆さんが活躍している姿を見ていてどんな感想を持たれましたか？」

○各務原の子が小さな時から自分の努力で、高校の時にはインターハイであったり国体であったり活躍していただけて、そして、その時に目標を持って見えたオリンピックになってオリンピックに出ていただくと、まさにね、実際に言った言葉を実現してきた子たちが、このように各務原市内には多いということは、市民にとっても勿論ですけど、小さいお子さんたちも今、ちょっと夢や目標を持つことが難しいような時代に、こういうふうで自分たちの先輩が頑張っているんだよということを見せていただいたこと

の方が良いなと正直思っていて、今、「ああ、もっと勉強しとけば良かった。」と、すごく感じる部分が多くなってきたので、「絶対にホッケーも勉強もしたい方がいいよ。」ということは、子どもたちにすごく伝えたいなと思います。スポーツを熱心にやるということとはすごく大事なことでと思うんですけど、今だったら英会話ってするのは、今の子どもたちに絶対これやっという方が良いよって伝えたいなと思います。私はスペインとオランダにも修行に行ったことがあって、やっぱり友達になりたいのに、あまり喋らなくて深い友達になれなかったりとか、「ああ、勉強しとけば良かった。」ということ海外に行っと思うことがすごくあります。だから、基礎の部分は日本でも勉強できると思うので、英会話については、本当に小さい頃からやっという方が良いなと思います。お母様たちにも、それを子どもにも伝えて欲しいなと思います。

Q「勉強やらないと言ってもですね、ご両親からしてみたら、勉

は本当に嬉しいことですね。

Q「ホッケーを始められたきっかけなどを伺ってもよろしいでしょうか。」

○私は、両親がホッケー選手だったので、本当にホッケーに関わることがすごく多かったんですけど、小学校3年生くらいの時に、母が「ちょっと各務原スポーツ少年団体験してみる？」と言われたことから体験しに行って、本当にホッケーがすごく楽しいなと感じて、それから私たち姉妹は始めるようになりました。

Q「その時まで他に何かやりたいスポーツがあったとかということではなかったんですか？」

○私は飽き性で、色んなことやっではいたんですけど、ホッケーだけはまっていて、姉の場合は、他にもテニスとか水泳とかしっかり継続して続けてやっていましたんですけど、私の場合は、ホッケーだけしかはまらなかったですね。

○私は、ホッケーというものはあまり知らなかったんですけど、小学4年生の時に、親戚の子がやっていて、休みの日に一緒に行か

強やれよって、多分だいがあったのかなと思うんですけど、ご両親から勉強に関して指導があったとかありましたか？」

○結構ありますね。やれって言われたり、この点数採ったら携帯没収するって言われて没収されたりしたんですけど、今思うと、言うこと聞いとけば良かったなとは思いますが、子どもの頃は、「何でやらなきゃいけないんだろう。」という思いだったので、正直、「これやっても、将来使わないじゃん。」と思うことがあったので、ちょっと疎かにしていた部分があったんですけど、これによって大人にならないとやっただけが良いというのが分からないので、難しいんですけど、やれって言われてやれるものでもないで、英語に関してもそうなんです、将来自分が使うと思うんですけど、将来自分が使うと思うので、そういうビジョンというのを早目に持つておけば良かったなと思います。

Q「海外のチームに行くとか、ホッケーの道で生きていこうと選んだ時に、親さんはこんなふう

に言ってくれたとかサポートしてくれただか、そういった親子の関係って何かありますか？」

○基本的に父は、もう行けよって感じなんですけど、母がすごく心配して、「何かあったらどうするの？」という状態だったんですけど、やっぱり、父が昔留学していたこともあって、行った方が成長するっていうふうには思ってたので、父と母でケンカしたこともあったみたいなんですけど、母がぐっと我慢して行かせてくれたのは、すごく今の自分にとっては大きかったです。こうやってずっと地元に住るとかじゃなくて、ちよつと大きい世界に飛び込んでみるということも良いことなんじゃないかなと思います。



○ホッケーをやるって決めた時も、応援してくれたというのが私にとって一番大きかったかなというの思います。自分がやりた

いことだったら、本当にお金の面でもそうですし、どんなことでも応援してサ

Q「逆に、親から言われた一言で、これは嫌だったなということはありませんか？」

○私の親は、試合が終わった後に、「今日は得点なかったね。」とか、そういうことを言ってくることもあるんですけど、私も本当に未熟なので、それに対して反抗してしまふことがありました。特に、自分が納得していない時にそれを言われると反抗してしまふことがあるので、自分が一番分かってるので、そつとしておいて欲しいなと思います。

○私の場合は、姉妹でホッケーしているの、姉妹間で比べられることが一番嫌で、自分は親にそこまで言われた覚えはないんですけど、「妹の方は良かったのに」とか言われると傷つきますし、それは親に限らず、周りの環境でもさらつと言われるんですけど、それが傷つくので、基本的には、人

ポートしてくれていたの、何か言ってくれるとかそういうわけではないんですけど、伝わってきた部分がありました。

○私の親は、自分がやりたいことをやりなさいという親だったの、勉強の部分とかは、もつとこうしろ、ああしろと結構口出しはあったんですけど、結局は、自分自身の意志をサポートしてくれるっていうのが一番大きかったの、そういう部分では、自分がどこでホッケーを続けるとか言っても、「自分の道だからそれは自分で考えなさい。」ということの後押しをしてくれたので、しつかり自分の芯を持って自分のやりたいことに突き進めたことにすごく感謝しています。

【浅野市長】 僕が将来市長になろうと思ったのは、中学校3年生の時だったんですね。なりたいうふうで、それまで親には何も言わず、高校に入っているんなことをちよつとずつ勉強していつて、24歳の時に、初めて話をしたんです。その時に父親の方は、口は出さんと、好きなように、そして、負けることは許さんと、一回負けたらもう止めろ、諦めろ、それく

と比べるっていうことをされた時に、頑張っているのになつていうふうになってしまったので、そこは少し気をつけて貰えると嬉しいです。

○私はあんまり比べられても「あつ、そつ」と思うくらいで、あんまり気にしたことはなかったんですけど、でも、やっぱり「今日はお姉ちゃん調子よかったね。」と言われるとすごく悔しくて、逆に、「じゃ、次は私の方が活躍してやるうー」という思いはしたので、姉妹みたいな思いはしていません。

【浅野市長】 父親は、ほとんど口を出さずに、俺の背中を見て育てるというふうなタイプだったので、なかつたし、母親も見守るタイプだったので、ほとんどコメントはないですね。ですの、逆に言葉がない分心配になりながらも、一生懸命やらなさいかなんという、そういう良いプレッシャーを、言葉ないながらも与えて貰っていたかなと思いますね。親から市民のためにという言葉を常々聞かされたので、そこはね、肝に銘じてやっていかないかなんと思います。

らしいの意気込みでいけと。母親の方は、心配で、政治の世界という、議員さんというのには年配の方が多いというイメージがあると思うんですけど、そんな世界に行つてあなたが仕事なんか出来るのかねというようなコメントをいただけたんですけど、とにかく思い切つてやりなさいと、背中をポン！と押して貰ったというそんな感じでスタートしましたね。

Q「先生とかこんなふうな支援してくれただか応援してくれたとかありますか？」

○先生方に関しては、とにかく自分たちを勝たせるために一生懸命指導してくださつたりとか、大会前だったら「これだけ練習してきただから絶対に勝てるぞ！」って、いつも言っていただましました。また、他の先生方も常に応援してくださつていて、怪我をして帰ってきた時とか、「大丈夫か？」と心配してくれたりとか、すごくきつい練習で、授業中に寝そうになつたりした時とかに、みんなにばれないように「トントン」とかやってくれたりとか、小さいことなんですけど、その積み重ねとい

Q「指導者によって違うことを言うという場合があると思うんですけど、そんな時、自分の中でどう解釈していましたか？」

○日本人の監督と外国人の監督とか、外国人同士監督であつても、やっぱり地域によって戦術とかも違うんですけど、結局やるのは選手、コート内に入った選手なので、そういう面では、監督の言葉も大事なんですけど、自分たちの意志というのをしつかり持つてやることで、コミュニケーション取りながらやっていくことで、一番良い戦術が生まれたりとか、その中にいる選手で上手いくつていうことがあると思うので、そういう部分では、違いがそれぞれあることによつて、自分たちの知識というかスキルの面の考え方というの、良いことなのかと思えます。

○今回は外国人の監督というところもあって、今までやってきた私たちの日本のホッケーの文化というものと、海外の人が持つてきた新しい知識とかがあつたので、ずれというのにはあつたんですけど、選手で話し合つて、それをま

うか、先生方の思いが表には見えないけど、自分たちをサポートしてくれていたなということを感じていきます。廊下とかすれ違つても、「今日、調子どう？大丈夫？」とか、「大会近いね、頑張つてね！」とか、いつも声をかけてくださいました。

Q「親や先生から言われた一言で自分をやる気にさせたことってありますか？」

○オリンピック前に、「後は怪我をせずに楽しんできてね。」と言われた時は、自分が納得出来るように頑張つてこようという気持ちにさせて貰いました。

○親が自分のやりたいことをやれと後押しをすつとしてくれたんですけど、「やるからには最後までやり続けなさい！」っていう言葉とかもあって、自分が甘い考えでやる時もあったんですけど、「やるなら真剣にやれ！」っていう言葉で、目指す目標とかも変わつてくるし、そういう強い後押しによつて、自分の目指す目標というものも明確に出来たので、きつい言葉もあつたおかげで今があるかなと思つています。また、す

た監督とも話して、もちろん最後は選手で決めるんですけど、決めるまでの過程で監督と選手とですり合わせるということがすごく大事だなと感じました。

Q「チーム内でぶつかり合つたりしたことはありますか？」

○しよつちゅうそれはあるんですけど、それは良いぶつかり合ひだと思つるので、その都度話し合つて、一つずつみんな決めていつたということです。

○みんなで決めたことを納得してくれる場合だけじゃないですし、それを言うからには監督にも意図があるの、監督の思いもあるの、それを少しずつくみ取りながら、私たちがの中で納得出来るように、お互いが譲歩しながら作り上げていくという感じです。



Q-「親の思いと子どもの思いってすれ違うことって多々あると思うんですけどね。自分の思いと全然違うことを親が言っているという時にですね、こんなふうに自分の中で対処したといった経験はありますか？」

○難しい所ではあるんですけど、私の場合は、選択肢の一つということに思っていたので、親の言うことも視野に入れるけど、結局は、話は聞いていますんですけど、基本は自分が決めていました。親も子どもも一人の人間なので、子どもに對してのリスベクトとかいうか尊重というのをしてあげるといいのが良いのかなと思います。私もこの年になってようやく気づけたことなんですけど、親は私のことを一人の人間として見てくれたからこそ、上から言われたことって今まであんまりなかったです。こうした方が良かったか、こうやって言うこともなかったです。やっぱり一人の人間として尊重するというのがすごく大事なんだと思います。

○あんまり何も言わなかったのでもあって、あんまり親とは思っていません。私の家は親が監督ということもあって、あんまり親とは思っていません。私の家は親が監督ということもあって、あんまり親とは思っていません。

Q-「親子で決めて、一緒に何かやっていくことってありますか？」
○小学校の時に、結構パスが得意だったんで、ボールを見ずにパスができるようにとって壁にボールを当てるんですけど、ただただ壁を見ずに正面を向いてパスを出すという練習を父とやっています。あの時は、私ももっと上手になりたいという思いがあったので、一緒に練習しようと言った。一緒にやっていると、小学生くらいだと嬉しいと思うので、その手伝いを親さんがやってあげると、お父さん、お母さんが一緒にやってくれるし、応援してくれているんだと思つて、もっと頑張れるということがあると思います。

Q-「今後、ご自身がホッケーをもっとこうしていきたいとか、日本のホッケーをこうしていきたいなどといった夢や展望はありますか？」
○自分自身の目標は、オリンピックに出て、試合に勝つことなんですけど、ホッケーをもっと日本中に広めたいという思いがあります。

いなかっただんですけど、やっぱり命令されるとか、こうした方が良くというような道を作られたってわけじゃなかったんで、やっぱりそこで、自分の道は自分で決めるじゃないですけど、自分で決めてきたので責任もありますし、上から言うということはない方がいいのかなと思います。

Q-「ここまでホッケーを皆さん小学校ぐらいから始めて、ここまでずっと続けてこられた理由、何かそういう物ってありますか？」

○ホッケーに関しては、やっぱり各務原市でこういうグラウンドがあるという、まず環境がすごく良かったなと私は思っています。それこそ小学校から高校まで、ホッケーをしやすい環境があったからこそ続けられているというのがありますし、後は、両親がしっかりサポートしてくれた、そういう所もすごく感謝しています。後は、やっぱり、自分が一番思うのは、チームメイト、一緒に戦いたいと思うチームメイトがいるからこそ、自分も続けられているなとすごく感じています。

○やっぱり家族の支えが一番大ですが、そのためには、勝つことで有名になっていくと思うので、しっかり結果を残していきたいなと思っています。

○私もパリオリンピックに向けて今も頑張っているんですけど、子どもたちには、こういう各務原市にはこういう素晴らしい環境がたくさんあって、ホッケーも中学校も含めて、色々な所である中で、子どもたちが自分たちがやりたいと思つた時に、親さんはやりたいことをやらせてあげられたら良いなということと、ホッケーの魅力というのは、やってみないと分からないし、見てみないと分からない所があると思うんですけど、自分たちさくらJAPANが結果を残すことによって、知名度が上がつたりだとか、こういうスポーツなんだと理解するきっかけができて、結果を残すということが次の



さくらJAPANの選手たち

きいなというのを思います。高校の時とかは、毎日部活があつて、毎日お弁当作つて貰つたり、送り迎えして貰つたり、そういう支えがあつたので、なんとか続けられたなというのがあります。また、自分が小学校の頃に、オリンピックの日本代表になりたいというふうに思つて卒業文集に書いて、それを実現したいなという思いをずっと持っていたので、諦めることなく続けてこられたというのが大きいです。

Q-「テンションを上げるために、何かしていらつしやることってありますか？」

○高校の時ですが、壁に自分のサインと目標を書いた紙を貼っていました。
○高校の時は、習字で、「全国制覇」とか、とにかく自分がなりたい、自分が目指している目標を大きく貼つて、毎回部屋から出る時に見られる位置に貼っていましたね。
○高校の時は、自分は岐阜国体の時に3年生だったのでプレッシャーもあつたんですけど、いつも部屋を出る時、ぱつと見た時に、「自分たちの目標はこれだ！」

未来の子どもたちに繋がっていくと思うので、自分もしっかりコートに立つて、お手本となるようなプレーヤーになりたいということと、口だけじゃなくて行動で示すということが本場に大事だと思うので、次に向けてしっかり頑張っていきたいなと思っています。

○私の大きな目標は、東京オリンピックだったんで、目標は変わりますが、今、国内大会があつて、私たちの目標は、今回は二大会しかなくなつてしまつたんですけど、その二大会で必ず優勝するということ。後は、ずっとホッケーをやっている中で、ホッケーをメジャーなスポーツにしたいというのを常に思っているんで、ホッケー以外でも、今だったらSNSの活用だったりとかはしていきけると思うので、そういう所でホッケーの魅力というものをしっかり伝えていきたいです。これから、自分たちが大会がない期間とかオフシーズン中には、色々な所を回つて子どもたちにホッケーの楽しさというものを教えたいなと思っています。
○私も東京オリンピックが目標だったので変わつてしまつたんですけど、

がんばろう！」っていう気持ちになつたので、貼っていて良かったなと思います。

Q-「モチベーションをあげるためのだったりとかルーティンというものはありますか？」

○高いレベルでホッケーしたいぶん、自分自身の見つめ直しで、空いた時間に自分の弱い部分のトレーニングをしたりとか、高校の時はホッケーしかなかったんで、そういう時間はあまりなくて、ホッケーだけをやってきたっていう感じでしたが、今は、自分の時間を作ることで、先のことを考えながら何をやるか考える時間ができたので、それをホッケーに繋げることができているのかなと思つています。

○私は、中学校の頃の部活動の先生が、「ホッケーノート」を付けるようにという指導をしてくれて、その時は、ノートを書いて先生に提出するという義務のような形でやっていたんですけど、それが習慣になつて今も続けられているので、中学校の先生には感謝しています。

けど、国内の試合で私たちはトップチームとして活動できているので、ホッケーを通して見てくれる人とか応援してくれている人の心を動かす試合というのを必ずして、日本一を勝ち取れるように頑張りたいと思います。

○みんなが言ったように、私たち5人ともそろっていることは、各務原が本当に大好きで、私たちがみんな、それは自信を持って言えるんですけど、本当に素晴らしい環境で素晴らしい地域だと思つているので、そういう中で、自分たちは育つてきたからこそ、こうして代表に選ばれて、東京オリンピックの舞台に立てたと思つています。だから、そういう感謝の気持ちというのを色々な形で返していくというのが目標です。みんなが言ってくれたんですけど、ホッケーをメジャーにするということなどは、自分たちがしたかったことなので、パリに出る選手もいれば、子どもに教えるとか、それぞれ色々な目標持ちながら、色々な形でこれからも携わつてメジャースポーツにしていきたいようにこれからも頑張りたいと思います。

家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育！

習慣化のススメ

1 なぜ習慣化できるのか
私は、2年前まで柴犬を飼っていましたが、成犬になってから引きとったのですが、最初は、えさも食べてくれず、頭をなでようとすると吠えられました。しかし、少しずつ慣れて、家族の一員となりました。名前は「クー」です。朝晩の散歩は、一人と一匹にとって至福の時となり、雨が降ると、雪が積もると欠かしませんでした。

2 習慣化で変わるもの

犬を飼う前は、ジョギングが生活の中に取りました。57歳を過ぎ、ひよんなことでハーフマラソンに参加することになったのですが、幼少から長距離を走ることは苦手で、何がおもしろいか理解できませんでした。最初は、3キロを走るだけで、息が続かず立ち止まっていた。しかし、「ハーフマラソンを完走する」と多くの人に宣言してしまつた以上、走らざるを得ませんでした。

そうして走り続けているうちに身体は変わっていきまし。風や日差しなどの自然を感じ、車では見逃してしまう景色を見ながら、自分の足で遠くまで行ける喜びを感じるようになりました。「10キロ越えると足が前に出なくなる。」「15キロ越えると膝が痛くなる。」などの試練はありましたが、初めてのハーフマラソンは2時間12分で完走。走ることが好きになり、その後もいくつかの大会に参加しました。

息が続かず立ち止まっていた。しかし、「ハーフマラソンを完走する」と多くの人に宣言してしまつた以上、走らざるを得ませんでした。そうして走り続けているうちに身体は変わっていきまし。風や日差しなどの自然を感じ、車では見逃してしまう景色を見ながら、自分の足で遠くまで行ける喜びを感じるようになりました。「10キロ越えると足が前に出なくなる。」「15キロ越えると膝が痛くなる。」などの試練はありましたが、初めてのハーフマラソンは2時間12分で完走。走ることが好きになり、その後もいくつかの大会に参加しました。

その理由として、二つ考えられました。一つは、愛犬と過ごす時間が大変だったけれど好きだったこと。もう一つは、生活の中にその時間が組み込まれてきたのでしよう。

3 子どもの将来を決める習慣化

「好きこそ物の上手なれ」ということわざがあります。「好きなことには熱心に取り組みたい」ということわざもよく聞かれます。好きなことは続けられるし、そのことを苦労とは思っていないので、成し遂げることができま。夢中は努力を超える。まさに、昨年、放映されたNHK連続ドラマ「らんまん」のモデルで植物分類学者の牧野富太郎博士の生涯を思い浮かべます。

また、「習慣は第二の天性なり」という言葉があります。天性とは、「天から与えられた性質、生まれつきの性質。」です。「生活の中で決まった行動をくりかえし行うことにより、生まれつきの性質のようになる」ということです。同じような言葉に「継続は力なり」「小事が大事を生む」もあり、一つのことを続けると思ひもしなかつたことを成し遂げることにつながると思われます。

4 「やればできる」は無責任な言葉か？

「やればできる」という言葉は、子どもを追い込む無責任な言葉だと言われる方もあります。やれば何でもできるようなことは言えません。しかし、何事も行動に移せばできるようになります。可能性が生まれるのです。「やればできる」という言葉は、そういうことを意味しているのでしょうか。

西濃事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 酒井俊巨

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

「おはようございます」、「さようなら」

登下校時、生徒に対しての挨拶が学校の外まで聞こえてきます。生徒より元気がよい挨拶。聞いていて気持ちがいいです。

この地域では、度々熊の目撃情報が入ります。登下校時に生徒の安全を考え対応してくださる姿、早朝など勤務時間外であるにも関わらず、生徒のことを第一に考え、いつも笑顔で接して下さる姿もあります。

先日、自分の恩師と話す機会がありました。30年前の自分を思い出し、「先生のおかげで〇〇の教科が好きになりました。ありがとうございました。」と話しました。先生は、他の先生に負けたくない、楽しく分かりやすくするために色々と考え授業をしたと笑顔でおっしゃって見えました。

自分たちが学生の頃と違い、感染症対応、豪雨等自然相手の対応も増え、その都度対応に追われる日々となっていると思います。その中で教師という職を選び、生徒と共に考え、分かりやすい授業となるよう日々奮闘し、あらゆる場面に対応して下さる先生方に感謝申し上げます。

(下呂市立小坂中学校PTA会長 桐谷 浩康)

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぜなぜ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぜなぜ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■7月号のお知らせ（予告）

特集＝「子ども食堂」ってどんな所？／表紙＝網代小／学校のたからもの＝海津小・牛道小・中央小・中部中／わが家の宝物＝上矢作小／リレーエッセイ／みんなが家庭教育／みんな、いっしょに／保健室ノート＝南小（高山市）／私の先生＝徹明さくら小／子育て半生記＝赤坂中／楽しい読み聞かせ＝阿木小／親の背中＝那加第一小・厚見学園／1冊の本＝南平野小・桜ヶ丘中／わが家の約束＝一色小・共和中／子の思い＝笠原小・神岡小・穂積北中／親の願い＝関ヶ原小・土岐津中／教育の窓＝岩野田小・竹鼻中／先生！ありがとう！＝興文小／お話しクッキング／ふるさとの伝承＝和良小／きらり！キッズ！＝東小（羽島郡）／夢中！熱中！我がが部活＝上麻生中／私たちのPTA＝蛭川小

令和6年能登半島地震

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

厳しい元日の寒さの中で

令和6年1月1日(月) 16時すぎに発生した石川県能登半島を震源とするマグニチュード7・6の地震は、日本中を震撼させるものとなりました。羽田空港の飛行機事故もあいつつ、「今年はどうな一年になってしまおうのか・・・。」と不安がよぎりました。

本震発生時、自宅の前にいたのですが、地面がゆらりゆらりと揺れを感じるとともに、近くの木々や電線が大きく揺れるのを確認して、地震だとわかりました。自宅に入り、すぐにテレビをつけると、能登半島北の海底が震源であり、マグニチュード7・6と非常に大きい地震で、東日本大震災のように津波が心配されていることがわかりました。

私が勤務している大学の学生、そして、卒業生の中にも、石川県出身者が何人かいて、実家に帰省している時期でもあり、全員が無事でいてくれることを祈る気持ちでした。特に、七尾市在住のゼミ卒業生Aさんのことが心配でした。震源地にも近く、本震後も、

震度6や震度5の余震が繰り返している町のひとつだったからです。

すぐにでも電話で安否を確認したい気持ちでしたが、現地の様子を思い、私からの連絡は控えていました。すると、翌日の夜、回線がつながったのでしょうか。夜遅くに、彼女から、家族も自分も無事であること、自宅は住めない状態になり、避難生活を送っていると短いメッセージが送られてきました。さらに、第2報には「まだ先は見えず不安ですが皆さんが声をかけてくださって心強いです。状況が変わったり、落ち着いたりしたらまたご連絡します。」とのメッセージが届き、少し安堵しました。すぐに、この内容はAさんのゼミ同期生と共有しました。

阪神淡路大震災の

手話通訳者派遣を経験して

私にとって、今も忘れることができない震災があります。今から29年前、平成7年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災です。

いたましい被害状況を目の当たりにし、そのたびごとに、多くの教訓を得るのですが、私たち自身、日々の生活の中に生かす防災・減災の取組はまだまだのように思えます。

障がいのある方が参加する防災訓練

阪神淡路大震災の時に、ある集合住宅を訪問した際に、聴覚障害のある高齢の女性が、家具などが片付けられていない暗い部屋にずっと佇んでおられた風景が忘れられません。周囲の方との意思疎通ができないまま、「怖い、怖い」と玄関から出ようとしないうです。日頃から、どのようにお話しできるのか、筆談であれば通じるのかなど、お付き合いがあればわかることも多いかと思うのですが、それが、積みあがっていかなかったのです。

また、大きな地震が起こるたびに、自閉症や発達障害の子どもや青年たちが、地域の方々と避難所で共同生活を送ることが難しいとよく言われます。悲鳴やアラート

大きな揺れに飛びおき、家族の寝室をそれぞれ見に行ったことを覚えていきます。この阪神・淡路大震災は、日本で初めて、地震発生直後から、被災地の様子がリアルタイムで、日本中にテレビ配信されたのです。内陸部で発生した直下型地震であったため、兵庫県、大阪府へと带状に大きな被害が広がる神戸市では、高速道路の寸断や高層ビルの崩壊、そして、二次災害となる家屋火災及びその延焼が広がっていました。テレビで刻々と映し出される様子は衝撃的なものばかりでした。

当時、岐阜県手話奉仕団(現在の「岐阜県手話サークル協議会」)の役員を務めていたこともあり、全国ろうあ連盟および現地対策本部からの要請に基づき、岐阜県が派遣した手話通訳者の第一陣に入りました。2月の第1週より、5日間、手話通訳者として、安否確認や生活情報提供、補聴器(電池も含む)の提供など支援活動に携わりました。

地震発生後、約半月たった神戸市では、がれきは道路脇にかき除かれ、市民生活がわずかずつでし、戻りつつあったように見えました。しかし、ひとたび、避難所を回っていくと、多くの学校は、依然、各地域の避難所のみで、授業は始まっていませんでした。職員室に詰める先生方は、地域の方たちと共に、避難所の運営に携わっておられました。また、避難されている方々の居住スペースに入ると、油ぎきの床の上に、段ボール、その上に毛布を二枚敷いて、その間に体を入れるという簡易的な寝床で、厳しい冬の寒さには耐えがたい様子でした。そうした中、搜索していた聴覚障害の方々に出会うと、「手話で話すことは避難所に来て初めてだ」「補聴器の電池が切れて使えなくなっていたのでほっとした」と、私たちを安堵した表情で迎えてくださいました。

まだまだ続く避難生活

さて、令和6年能登半島地震では、まだまだ自宅に戻れない方が大勢おられます。こうした被災地の様子に関心を持ち続けていきたいと思えます。そして、今も解決できずに残されている課題を、私達自身のことととらえて、できることをひとつでもみつめていきたいと思います。現在、私は、聴覚障害者協会とともに、支援金の呼びかけをしたり、被災情報、支援情報を、手話サークル仲間と共有する活動を続けたりしています。

そして、教え子のAさん、そのご家族のことを思い続けていきたくと思っています。



「メディアア川柳」から思いつくこと

足近小学校は羽島市の北部に位置し、全校児童185名の小規模校です。羽島市は中学校ごとに5つの校区に分かれており、足近小・正木小・小熊小と羽島中で羽島中校区になります。

羽島市の養護教諭部会では平成30年度より「児童生徒のメディアコントロール力を高める」ことを目指して活動しています。

足近小でも、年3回のメディアコントロール週間を設け、この期間は少

でもメディアコントロール力を高め、「自分の力でメディアをやめることができる」を目標に取り組んでいます。この中の1回は、羽島中校区で期間をあわせ、兄弟家族でメディアコントロールに取り組んでいます。この取り組みは、食事の時間だけメディアをなしにするコースから、学習や習い事ですぐ必要なメディア以外朝から寝るまでノーメディアのコースなど6つのコースから、家族で話し合って決め、取り組みます。

その中の今年度の大きな取り組みとして、「メディアア川柳」があります。中学生に友達、後輩に贈るメディアについて五・七・五の十七音に思いを込めて作ってもらいました。少し紹介しま

すと、もうダメだ スマホを触る ポチっとな のような自分の弱さや後悔の気持ちを詠んだ句や、ノーメディア

しあわせ運ぶ 笑顔増える のような前向きでハッピーな句など中学生ならばのユーモアとかわいらしさ含んだすばらしい句が多く集まりました。多数の作品から20の句を選び、各学校で紹介し、「この句がステキ」と思うものに投票し、一番票を集めた句を各学校賞としました。ちなみに足近小賞に輝いた句は、ノーメディア がまんした分

成果でる でした。前向きで素直な足近小の子供たちの心に残ったようです。その後、足近小の子供たちにもメディアア川柳を募集したところ70句ほど集まりました。



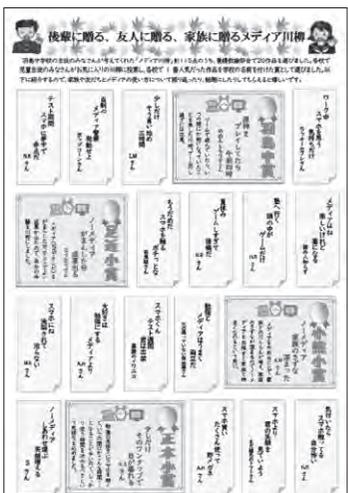
羽島市立足近小学校
養護教諭
赤塚 真美

ユーチューブ 見ているうしろで おにの顔、ノーメディア みんなで楽しく 取り組もう、メディアはね じんを決めて 楽しもう など小学生らしい句が集まりました。その中で多かったものは、ノーメディア 家族のきずな ふかまるよ、メディアより かぞくといっしょに わらおうよ など「家族と一緒に」や「家族の時間」など「家族」をテーマにした句でした。これらの作品からは、メディアコントロール週間の間、家庭で楽しい時間を過ごしたり、会話を楽しんだりした思い出、家族との時間を大切にしたいという気持ちが出、伝わってきました。

この期間、メディアに費やしていた時間は、読書・お手伝い・家族とのふれあいの時間に代わっているようです。この家族とふれあう時間が、子供たちの心に深くしみみて家族をテーマにした川柳として現れているのではないのでしょうか。年に一度ですが、この取り組みを継続できていることが素直

で愛らしい足近小の子供たちの成長の一端のような気がします。ご家族の方のご協力に心から感謝です。実は、保護者の方にもメディアア川柳を募集しました。そんな保護者の方からの句を紹介します。家族との 時間と会話が 宝物、ゲームなし たまにはいいね そんな日も、ノーメディア 一週間でも ありがたい、はやくねて すつきりめざめて さあいこう などお子さんとのふれあいの時間を大切にされた気持ちや、お母さんの本音と思える句、お父さんからの川柳があったことはとても嬉しかったです。子どもたちにも紹介して親子のコミュニケーションのきっかけにしたいだけだからと思います。

これからの時代、メディアを排除することはできません。上手に付き合っていくことが大切だと感じています。メディアにコントロールされる生活ではなく、メディアをコントロールしていく力を小学生の時期につけておくこ



私に夢を与えてくださった恩師

養老町立池辺小学校

教諭 平山純暉

私は今年度、初任者として、自分の夢であった教職に就いています。これまでたくさんのお恩師に出会いました。小中高の担任の恩師、授業でお世話になった恩師、部活動で指導していただいた恩師、大学の教授、一緒に働いている同僚、同じ年の同僚にも支えあいながら働いています。

教師としての理想像は中学三年時の担任のA先生です。A先生は私に「安心感」を与えてくださいました。中学三年になり、クラス替えがあった初日、私は今まで仲の良かった友達と一緒になれず、「最悪やー」と嘆いていました。そこに担任のA先生が掛け寄ってきて、肩を組み「そんなこと言わずに、楽しもうやー」と言ってくれ、始まった三年生でした。思春期でもあり、なかなか大人の意見を素直に聞き入れられない私でしたが、A先生は「私のことを見てくれていて、認めてくれる」と思うことが多くありました。いわゆる「先生」、という遠い存在ではなく、近い存在であることが、私に信頼感を与え、いつでも、何でも相談することができたのだと思っています。卒業式前、私はA先生のようにになりたいと思います。教師を志し始めました。大嫌いだっただけでも先生のおかげでやる気になっていました。上手く、言葉で表せないのですが、とにかく先生のこと大好きでした。教員になった今年の夏休みの後、担任している子ども達から、「担任の先生が平山先生でよかった」「国語嫌いだけど、先生の授業だから頑張れる」と言ってもらった時は、本当に嬉しかったことをはっきり覚えています。

私が今、大切にしていることの一つでもある、礼儀。そのことを徹底的に教えていただいた、野球部の監督兼国語のB先生。今でも忘れられないエピソードがあります。入部したてのある日の昼、B先生に用事があり、職員室に行きましたが、話を聞いてもらえなかったのです。その原因は、「今、お時間よろしかったでしょうか」と許可を得なかったことにありました。そのことを高校時代に教えていただき、常識と知ることができ、今では特に意識することなく使えていることに感謝しています。私は、子どもたちに、提出物を「お願いします」と言ってお出し、「ありがとうございます」と言ってお受け取ることや、向きを揃えることなどをしっかり教えています。また、野球部に入部し、引退するまで約八百日、毎日野球ノートを書きました。野球ノートには、自分のやるべきことを考え、PDCAサイクルを必ず記入することや、チームの伸ばすべき所を考え、練習メニューを立案するなど、考える力がつきました。今、教師になり、自分に足りないことは何か、クラスに足りないことは何かを考え、行動することができています。現役で活動していた頃は、監督と選手という関係で、近い存在と思うことはありませんでした。しかし、引退し進路の相談をしたとき、教師になりたいと伝えると、本当に親身になって相談にのっていただきました。「一緒に働けることを楽しみにしてるぞ」と言っていたのは今でも忘れていません。

そして、同じ年の二人の先生。小さい頃から仲の良いC先生。大学一年から共に教員を目指し、切磋琢磨したD先生。この二人の存在が私にとって、本当に大きな力となっていました。この二人がいなかったら、違う道に進んでいたかもしれません。この二人がいたからこそ、私は教師になると強く思うことができました。そして、今も教師として頑張っています。同じ教師として、お互い励まし合い、相談し合い、笑い合い働けていることがとても嬉しく思います。

私が今、こうして教師として働くことができてきているのは、この四人の恩師と同僚に強く支えられただけでなく、深く関わった恩師に、こんな大人にはなりたくないと思っただけでなく、同僚のおかげで毎日が楽しいです。

私の今の夢は、「先生みたいな先生になりたい」と子どもから言われることです。今言われても困ります。もっと、もっと成長して、今まで関わってきた恩師や同僚のようになり、夢を叶えたいです。

もっと、子どもたちの様子を伺い、少しの変化に気づいたり、一言を逃さない、そして授業でも子どもたちの心を掴むことのできる教師になれるよう、励んでいきます。

わが家の宝物

わが家の宝物は、家族と、家族と過ごす時間です。
 わが家の家族構成は、奥さんと五人の子どもたち、七人家族です。十七歳の長女、十四歳の二女、十三歳の長男、八歳の三女、六歳の四女と奥さんと自分で七人家族です。
 家族が多いので会話の話題が尽きることはありません。学校のこと、友達のこと、恋愛や下ネタまで常に笑いが絶えません。特に下ネタは盛り上がりがあります。
 キャンプをしたり、公園でバレーボールをしたり、いつまで七人で一緒に笑っていられるんだろう。いつまで一緒に美味しいものを食べたり、子どもたちの寝顔をながめたりできるのかな。

かけがえない今が本当に宝物です。



リレ エッセイ 28

各務原市立鶴沼第二小学校 PTA

土屋 まりえ



ふれあうこと

私には子育てで大切にしていることがあります。それは、『どんな時でもふれあうこと』です。嬉しいときにはハイタッチ、悲しいときにはぎゅーっとハグ、叱るときは出来るだけ手をとって伝える、寝る前どこでも触ってオッケー。最近は足裏マッサージをねだられたり、手を首元に入られたりしています。

長男が生まれたタイミングでベビーマッサージを学び、その中で『親子の絆はふれあいから：ふれあうことで親も安心リラックスができる』ということも学びました。しかし、二才三才のイヤイヤ期なんてそれどころではありません。子どもが痲癩を起こして「うわーん！」となると、どうにもならず一緒にこっちも叫びたくなる、むしろ叫んでいました。誰もが通る道だと頭ではわかっていても、気持ちに余裕がないと一緒に爆発してしまうのです。そんな頃もありましたが、できるだけ手をとって子どもの言い分を聞いたり、こちらの気持ちを伝えたりと、毎日ふれあうことを念頭に生活していました。

そんなある日、私が少しもやもやした気持ちでいると長男が

「おかしーさんイライラしてる？大丈夫？ハグしようか？」マジか！衝撃でした。子どものためにとはじめてことが、まさか自分に返ってくるとは思っていませんでした。現在一年生の長男、不安なことがあるとちよっくつきにくるので、ぎゅーっとします。ハグしてチャージしたらまた頑張れるそうです。

子育てって大変なこともあるけれど、必ずママパパの気持ちは伝わっていて、いつか返ってくるんだなあ、と感じました。今では次男も私の変化に気づいて、「ぎゅーしようか？」と言ってくれます。こどもたちから、安心リラックスできる時間をもらって嬉しい限りです。いつまで続くかわからないけど、子どもたちが嫌がる日までハグしてチャージさせてもらおうと思います。



次回は... 各務原市立陵南小学校 PTA 篠塚 千鶴さん

晩秋におもろ

令和5年の秋は、あつという間に過ぎてしまった秋であった。季節は、初秋を省略し、中秋を割愛してしまつたかのようで、暑い暑いとげんなりしていたら、知らぬ間に肌寒くなつてしまつていて、上着が一枚ほしいと思うような日々が続いた。雨の日も少なく、中秋の名月の日はかろうじて晴れていたようにあるが、多くの人々にとっては、さわやかな季節の中どこかに遊びに出かけたというおぼえもないうちに冬を迎える準備をしなくてはならない、そんな気ぜわしい日々であつたのかもしれない。

何年前なら、こういう変則的な季節の移り変わりは「異常気象」などと呼ばれることもあつたようだが、ところが、最近ではそういう言い方そのものがあまり使われていないようで、それというのも、おそらくは、異常が通常になつてしまつているからであろう。毎年、どこかで水害が起き、台風の被害や土砂崩れもあり、熱中症に注意しなくてはならない酷暑の日々が続き、地震や津波まで発生する。遺憾ながら、そんなことが当たり前になつてしまつたのであろう。

そんなことをなんとなく気にしていたら、不思議なことに、何年も前に読んだ本の、とある一節が思い出されてきた。その本のタイトルも著者の名前もはやしなかつたであろう。彼はただ単に少しだけ深く耕しただけだ。耕うん機のない時代にそうすることは彼に重労働を強いるものだったにちがいない。しかし彼は、ただそうすべきだと思つたから、そうしたので。

わたしたちは気候の移り変わりや天候の変化に、ある種の物語を感じるようになってきているらしい。映画のヒーロー／ヒロインがどこからともなくやつてきて、こともなげに困難な状況を解決し、なんの要求もせず立ち去つて行くのと同様に、風や雨はどこからともなくやつてきて、いったんは私たちの注意を引いたあと、まるで何事もなかつたかのようにどこへともなく去つて行く。そんなちよつとした芝居を天が見せてくれているかのようだ。

盛夏には、岩にしみいるどころか、むしろ岩にぶつ

まつたく覚えていないあいまいきわまる記憶なのであるが、その本は江戸時代の農民に関して、こんな問いを立てていた。最初はほぼ同じ面積の田を耕作している同程度の生活水準の自作農階層が、100年後には、田を手放してしまつた小作人階層と、その小作人が手放した田を買い入れた地主階層に分かれてしまう。つまり、一つの同じ村の中で貧富の差ができてしまう。では、そのそもその分岐点ではいったい何が起つていたのか、両者はいったいどこが違つていたのか、そういう問いであつた。その本によると、答え(?)

は確か、片方が田を少しだけ深く耕しているというものであつた。確かに少しでも深く耕せばその分だけ水を入れることができるようになるので、干ばつに強い田になるのかもしれない。また、水は比熱が大きいので、つまり温まりにくい冷めにくくもあるから、冷害に強い田になるのかもしれない。災害に強い田を作れば不作になりにくく、作柄の悪い年にこそ格差は広がるということなのだろう。私はコメ作りについては何も知らないし、また、この答えが史実として正しいかどうかはわからない。なんだか説教臭くもあり、うさんくさくもある話だとは思いつつも、しかし、おもしろい答えだとも思つた。100年前のご先祖様は100年後の子孫が地主になつていなんて想像すら

かり反射してうるささが2倍になつてい暑苦しいクマゼミの声も(そういえば、私の子供時分にはどこにもいたアブラゼミやニイゼミはどこに消えてしまつたのだろうか)、冬には寝ている間にあたり一面にむやみに降り積もり、朝になつてそれを見ても雪朝遠望なんて気分にはとうていならず、雪かきの労苦が思いやられて嫌になつてしまふ、そんな雪の積もる日々も、やはり天が私たちにを見せている物語なのであろう。その物語は人間にしばしば労苦を強いる。好むと好まざるとに関わらず、私たちがまた、その物語の登場人物であるのだ。



PN. みゆゆ (各務原市)



PN. 木村 陽平 (各務原市)

question ①

出題・赤堀 晴輝 (岐阜市)
〈答えは41ページ〉

なかなかつかめなくてイライラしてしまうお肉って?



「楽しみにしてたよ」の音が聞きたくて

北方町立南学園PTA「えほんサークル」

私たち「えほんサークル」は、北方南小学校開校（平成十三年）以来、「絵本の読み聞かせ」の活動をしています。読み聞かせの時に、子どもたちが目をキラキラ輝かせて、「楽しみにしていたよ。」と言ってくれることを励みに、少しでも子どもたちが本に興味をもってくれるよう心掛け、地道に活動を続けています。また、年度末にメンバーお勧めの本を五冊ほど選び、図書館に寄贈することもしてきています。

活動の流れ

年度初めのPTA総会の折に、

サークルのメンバーをPTAで募集します。活動を始めた頃は、一年〜三年までのいずれかのクラスで、月に一・二回読み聞かせを実施し、春と秋にある図書館まつりには、先生方にも協力いただき、全校読み聞かせを行っていました。また、年度末に行われる新生一年生の一日入学の際には、新生一年生に体育館の大型スクリーンを使って読み聞かせをすることを通して、新生一年生の保護者の方にも読み聞かせの大切さを広め、サークルへお誘いをするようにしてきました。

年によっては、サークルには母親だけでなく父親の参加があるこ

ともありました。サークルのメンバーが決まるのは五月の上旬で、ミーティングを開き年間計画とサークル名簿を作成し、みんなが無理なく活動できるようにしています。お子さんの一年時にサークルメンバーになり、お子さんが卒業されるまで参加してください。

読み聞かせの実施

読み聞かせは、朝の会と一時間目の間の『みどりタイム』の十分間を使って、各学級の教室で行いました。「読み聞かせサークル」のメンバーが、仕事に行く前のほん

のわずかな時間で活動できることが魅力です。読み聞かせるの時は、自宅からもってきた絵本や県や町の図書館から借りてきた絵本を二冊ほど、時には大型絵本の読み聞かせをすることもありました。読み終わった後には、子どもたちの感想や感謝の言葉をもらいます。「〇〇の本を読んでほしい。」と、次回のリクエストをもらうこともあります。読み聞かせの後には、読み聞かせ記録ノートに、実施日と絵本の題名・作者名・子どもたちの感想や反応などの一口感想を書き記します。時間に余裕のある時には、どんな本を選ぶと子どもたちが喜んでくれるかな?と、

お勧めの本の情報共有をすることもあります。



コロナ禍での活動

令和二年からは、「読み聞かせサークル」により親しみを感じてもらえるようにと、サークル名を「えほんサークル」としました。時を同じくし、残念なことに新型コロナウイルス感染症予防の観点から、読み聞かせの活動を自粛せざるを得なくなりました。読み聞かせは、子どもたちが楽しみにしている時間であったことと、コロナ禍でおうち時間が増えたことから、「親子の時間をもっと大切にし

たい!」という思いから、二カ月に一号くらいのペースで「えほんサークルだより」を発行し、お勧め絵本の紹介を始めました。学校の図書館にある絵本の中から、「親子で、ほっこり楽しい時間を過ごしてみたいかがですか。」と、次のような本を紹介してみました。

- 『かみさまからのおくりもの』
- 『ほしじいたけ ほしばあたけ』
- 『3びきのかわいいオオカミ』
- 『パンダ銭湯』 等々

お子さんから家族へ読み聞かせをするような家庭もあり、「家族みんなで穏やかな時間を過ごすことができました。」と言った感想も寄せられました。

北方南小から南学園（義務教育学校）へ

北方南小学校は令和四年度に閉校し、令和五年度より南学園として新たに開校しました。そのことに伴い、令和四年度末には、六年生の子どもたちが「えほんサークル」への感謝の気持ちを込めて、活動を引き継ぎ、昼休みに

二階の踊り場で、下学年に向け、読み聞かせをしました。

今年度は、義務教育学校になったことに伴い、日課が変わったことや、特別支援学級も含め、一年生から九年生までで二十三学級になったことから、「えほんサークル」の活動はできませんでした。しかし、児童生徒会中心に、九年生が下学年に読み聞かせを行う活動に繋がりました。北方南小学校開校と同時に立ち上がった「読み聞かせサークル」の活動が、新たな南学園の子どもから子どもへの読み聞かせの文化へと発展したことを、とてもうれしく感じています。

読み聞かせをしていると、ストーリーが進むにつれ、笑ったり驚いたり、目の前の子どもたちの表情が、どんどん変わっていく、豊かに想像力を働かせているのだろうと感じます。

本が大好きで、思いやりをもって人と接することができる子どもたちへと成長していくことを願い、これからも読み聞かせを続けていきたいと思っています。



親の背中 ②②

親という漢字

美濃加茂市立蜂屋小学校

P T A会長 伊藤 光孝

本来の語源とは違うかもしれませんが「親」という字は「木のうえに立って、見まもる」とよく表現されます。

当時は少し言われただけで口うるさく感じてしまっておりましたが、今思うと確かに私が子どものころ親からはあまり口うるさく言われることもなく、自由に過ごしており、遠くから親に見守られていたものだと感じます。

さて、私が子どものころと言えばいまから30年以上前のこととなってしまいますがでは現代ではどうでしょう。教科書の内容も「いい国(1192)作ろう、鎌倉幕府」だったものがいつの間にか「いい箱(1185)作ろう、鎌倉幕府」に。太陽系の惑星の数も9個から8個に減っています。

さらにはいままでは小学生でもスマホを使用し、多くの情報を入力できる時代となっております。

このような多くの変化がある情報化社会

親の背中

恵那市立串原小中学校

P T A会長 中垣 野歩

『親の背中』というテーマをいただいた時、正直何も浮かばず、なんだか何を書けば良いのかも今もまだ不透明でいる。

幼い子供は親の言動を見て吸収していく。信頼する大人たちのマネをする。それが正しいと思えていく。

子供から中学生にもなれば、親や周りの大人たちを見て、善し悪しの判断や自分の想いが生まれ、自分で様々なことを選んで生きていく。それは親にとっては反抗期や難しい年頃と捉えている年代ではあるけれど、自分の判断で選んでいる人間になっていく証拠でもあるんだなと最近感じている。

私は、子供たちが幼い頃から家を空け仕事に明け暮れている。当初は子供たちが幼かったこともあり、家庭と仕事のバランスで葛藤することもあった。

私の仕事は販売職で、土日もゴールデンウィークも、年末年始も家にはほとんどいなかった。時に世間で言われる『お母さん』との違いに申し訳なさを感じつつも、私は私の生きる楽しみが必要で、仕事で自分が成長していけることも楽しかった。もっと子供たちと一緒にいた方がいいとか、お

の中で「木のうえで立って見まもっている」では子どもに勉強を教えることも、子どもに正しいことを伝えていくのも困難になってきているように感じます。

また、私には小学生の男の子と女の子、二人の子がおります。

二人の性格は性別の違いを加味しても全く違います。同じように接していても上の子の時にうまくいった作戦は下の子には全く通用しません。

そういった中で私が子どもと接するとき、気を付けていることは子どもと一緒にいるときは一緒のことを全力で行い、たくさん会話するということです。

子どもが勉強を行っているときには一緒に問題を解いたり自分も勉強をしたりします。勉強中はスマホは極力触らないようにします。仕事の連絡でどうしても触ってしまうときは上の子からは注意を受けることもあるくらいです。

やはり、自分が一生懸命乗りしないことを行っているとき周りの人が別のことをやっていたら気になってしまい、やる気がなくなってしまうこともあるかと思えます。(少なくとも私はそうでした)

さんと一緒に過ごしてください、とかいろんなことを言われた。確かに当時は私のように朝から晩まで、子供の休日に関わらず家を空ける家庭は少なかったように思う。

私が子供たちのためにしてあげられることは確かに少なかった。でも、それが私の選んだ私の生き方だった。そしてそれが当時の私の「背中」だった。それが良いとか悪いとかではなく、私なりに、私にしか伝えられないことがあって、どう受け取るかは子供たち次第としか言いようがない。

仕事を辞める日の朝、子供たちに、『お母さん、今日でお店おしまいだからね、明日からはおうちの仕事するからね』と伝えたら、子供たちはポロポロと泣いた。私はてっきり、家にいる時間が増えるので喜んでくれるかなと思っていたのでびっくりした。子供たちの涙の訳は、『なんで、お母さんが大好きな仕事を辞めなきゃいけないの?』だった。自分が子育てを始めて一番誇らしく思えた瞬間だった。

葛藤しながらも、自分で選んだ仕事を楽しんでやっていたことは子供たちに伝わっていた。楽しく仕事に行く毎日を子供たちはそんなふうに応援してくれていたのだ。子供たちは、私の「背中」をそんなふうに見てくれていた。

生きることは選択の連続だ。どちらの学

良いことがあって喜んでるときは一緒に喜び、全力で褒めます。悪いことをしたときは全力で叱り、一緒に反省し改善点を探します。

遊ぶときは一緒に全力で遊びます(それはもう子どものように)。妻からは「元気だねえ」と呆れられてしまいますが、私は体が元気なうちはこれでいいと思っています。一緒に全力で遊ぶことで自然と会話も弾み色々なことを話してくれます。

「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」

有名な言葉ですが、文頭の「やってみせ」を行わずに「言ってみせてほしい」が多く親たちの願いだと思えますが、まずはやってみせないことには次のステップは難しいかもしれません。どうせそのうち相手にされなくなってしまいうから、出来るうちは一緒に色々やってみせていきたいです。

木の上から見守るのではなく、「横に居る」そんな「おや」になりたいと思っています。

校を選ぶのか、何の仕事につくか、誰と結婚するのか、そんな大きなことだけではなく、日常の会話や気持ちも選択の連続だ。親との会話や態度、友達との毎日、先生や地域の人との関わりの中で子供たちは日々多くの事を見て聞いて考えて自分の中で消化していく。その中で子供たち自身が、自分はどう在りたいか全て選んでいくのだ。子供たちは、私たち大人が想像しているよりもずっとずっと自分の想いを持っている。私たちが子供たちに見せられる背中であることも大事かもしれないけれど、子供たちいろいろな背中を見てほしいと思う。

良いも悪いも、言葉も行動も、生き方も捉え方も。いろんな人の想いがあったりいろんな人生がある。捉え方や考え方で見える世界が変わることもある。私が見せられる背中はお手本でもカッコいい姿でもなく、私の生き方でしかない。その姿が子供たちの目にどう写るかはわからないけれど、誰かの生きるヒントになったり、生きて行く中でのちよつとした励みや癒しや教訓として、ふと頭をかすめられることがきたらなあ……くらいの緩い感じで居られたらと思う。

大人の数だけ、人の数だけ見ることができる「背中」があることを子供たちに伝えていきたい。



才能の伸ばし方

著者・折山淑美
出版社・集英社新書

高山市立久々野小学校広報委員長
長瀬浩平



この本を読みきりかけは現在六年生になる長男がサッカーを始めた頃です。私は学生時代スポーツが得意ではなかったため、息子がサッカーを始めることがとてもうれしかった。

一緒に探しました。
そんな時にちょうどトイレを始めの頃だったのもあって『おトイレさん』の絵本が目に入り下の娘に少し読んであげたらこれにするといい、何故か真ん中のお姉ちゃんも一緒に読んでと言ったので購入したのがこの本との出会いです。

本の内容は、おトイレさんというトイレをしたいどうぶつの子どもたちをこよなく愛する、ちょっと怪しげだけれども、優しくユーモアにあふれるおトイレさんが、どうぶつの子どもたちが元気に正しくおトイレを使うとうれしくてついつい変なだじゃれをもらしながらも応援するお話です。

私はりすさんがおしっこをして帰

です。その反面どう教えてあげたらいいのか？不安もありました。その時にこの本に出会いました。

この本は自身も様々な分野で才能を発揮してきた著者が、その経験と知識を基に、具体的なアドバイスやツールを提供しています。

「才能は天性でなく、養成することができると」という信念を持つており、その考え方を根拠付けるために、自身の成長ストーリーやほかの成功者の事例を交えながら、読者に希望と勇気を与えてくれます。

特徴的なポイントが多様な才能に対して適用できる具体的な戦略や練習方法を提案していること。またそれぞれの才能に応じた適切な環境の作り方や、日々の生活の中での習慣の整え方、目標設定や時間管理など詳細に解説されています。また、著者自身の悩みや失敗を振り返りながら、読者に対して正直な助言もあり、学びのプロセスや挫折からの立ち直り方についても書かれています。

私自身、この本を読んで多くの学びを得ることができました。特に才能を発揮するためには継続的な努力が必要であり、一時的な興味や情熱だけでは十分ではないことを改めて

認識することができました。また、どの分野において才能を持っているのかを見極めてそれを磨いていく重要性も大切なことだと学ぶことができました。さらに、失敗や挫折を恐れずにチャレンジし、そこから学ぶ姿勢の大切さも心に響きました。

「才能の伸ばし方」は、才能を持つ者も持たない者も自分自身の成長と可能性を信じる人々にとって、とつても価値のある一冊だと感じました。著者の温かみのある言葉と具体的なアクションプランがとても魅力的で心に刺激と希望を与えてくれました。

息子は三年生からサッカーを始め小学校最終学年の六年生まで無事サッカーを続けてくれました。この本を読んで感じたことがどこまで息子に伝わったのかはわかりませんが、サッカーを続けるなかで、色々な苦難と一緒に相談しながら今まで続けられたことは非常に嬉しいです。来年から中学生になりますが、サッカーを続けてやっけていくようです。才能だけではなく努力で人として大きく成長していく息子をこれからも見れると思うと、今後も非常に楽しみです。

をブラシで洗っていたり、便座の顔を閉じて寝る姿などおトイレするだけではないことも教えてくれます。

この本はあれはダメこれはダメではなく、楽しくおトイレする気持ちにさせてくれるほっこりする絵本です。

今回絵本を選んだのは、絵本が読み手次第で幾通りの読み聞かせができること、そして子どもたちは個々にイメージして何倍もの受け取り方をしてくれることのできるアイテムだからです。大人がおもしろ楽しく読んであげれば子どもも勝手に楽しく笑顔になってくれます。

PTA活動は忙しく大変なイメージがついてしまっていますが、大きなこと沢山のことをやる必要はなく

社会全体が私の少年時代と比べると難しい時代だと思います。その中で自分の得意分野を伸ばして、才能を開花していつてもらいたいと思います。

おトイレさん

さく・え…きたがわめぐみ

出版社・教育画劇

岐阜市立岐北中学校PTA副会長
伊藤淳



3人目の子どもが3歳のクリスマスに子どもたちに本をプレゼントしたくて本屋さんへ行きました。子どもたちに好きな本を探しておいでと言ったら、上のお兄ちゃんはお母さんもお姉ちゃんもキャラクターの小さなカバンがおまけの子供雑誌でした。一番下の娘はまだ字が読めないの

小さな活動でも大人が楽しみ、そして子どもたちを楽しませようとすれば子どもたちが笑顔になってくれることを教えてくれました。

私は自分の子どもたちが大きくなって親になったときにお父さんやお母さんがPTAを楽しくやっていったなと思いたしてくれることがPTA活動の意義と思っています。

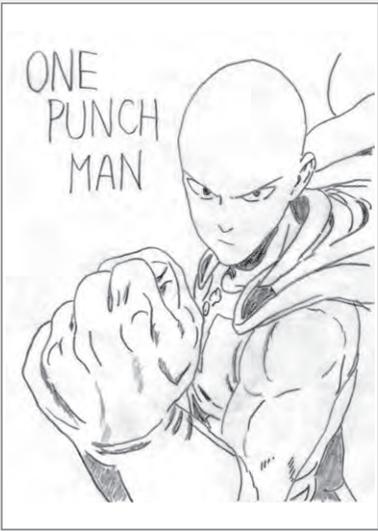
さいごのおトイレがどうしてきりんのぼうや？と思ったらオチがありました。気になった方はよかったです。本を手にとってもらえれば幸いです。図書館でも貸出しているみたいなので是非！

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. モンキー (加茂郡)



PN. ブーさん (下呂市)

question

出題・山岡 竜也 (美濃加茂市)
(答えは41ページ)

小説家の足を引っ張ると、運動選手に変身しました。何の選手でしょう？

子の思い

ボランティアがんばるぞ

各務原市立那加第二小学校
 三年 鳥居 桜子

私ががんばっていることは、ボランティアです。お家の人たちは、いつも早く起きて、家のことをいろいろしてくれています。だから、一つでもお家の人たちを楽にさせてあげたくて、そうじや洗いや物を自分からしています。ボランティアをすると、「ありがとう。」と言ってくれて、またやるという気持ちになります。

さい近は、ふとんをたたんだりふとんをしいたりする仕事をまかせてもらえるようになりました。今までできなかったことができるようになったこともうれしいです。

私にはお姉ちゃんがいる、お姉ちゃんもボランティアをがんばっている、それよりももっとたくさんボランティアをしていきたいです。そして、お家の人たちを

楽にさせてあげたいです。

「共に生きる」ために

山県市立富岡小学校
 六年 林美伶

富岡小学校の学校目標は、「心豊かでたくましく共に生きる富岡の子」です。「共に生きる」とは、自分やみんなのためにやる行いをする事です。私が執行委員長になったとき不安な気持ちもあったけれど、「みんなに居心地よく過ごしてほしい。自分の学校に誇りを持ってほしい」と思い、全校のみんなが「共に生きる」ために様々な取組を行いました。

特に力を入れたことは、あいさつ活動です。相手がポジティブな気持ちになれるよう、目を見て笑顔心がけました。毎日あいさつをしていると、あいさつを返してくれる人が多くなっていき、返された私も嬉しくなりました。最近ではすれ違いあいさつが増え、学校が明るくなってきていると感じられます。執行委員

長を経験したことで、全校や全体を見る観察力、考えて実行する考動力が身についたと思います。自分たちが働きかけると全校のみんなが返してくれ、『やってよかった』と感じ、自信になりました。さらに『また頑張ろう』という気持ちになり、次の活動も一生懸命取り組むことが自分の成長につながったと思います。

これまで協力してくれた仲間達、活動を見守ってくださった先生方、応援してくれた家族に感謝しています。富岡小学校を卒業しても、学校目標の中にある「共に生きる」を大切に、自分やみんなのためになることを進んで行っていきます。

人とつながり関わることの大切さ

大垣市立南中学校
 三年 村田 柗陽

僕はこの夏、鹿児島市親善訪問大垣市中学生使節団に南中の代表として参加しました。この交流事業に参加するにあたって「楽しむ」とい

う目標がありました。大垣市の中学生の代表として参加させていたことを考えると、自然と「せっかく参加させてもらったんだから楽しもう」という気持ちになったからです。今になって振り返ると、その目標は達成できたと感じています。なぜなら、最高の仲間に出会えたからです。

大垣市使節団のみんなとも鹿児島市使節団のみんなとも、事前打ち合わせ会の時点ですぐに仲良くなりました。私自身、みんなと会って話すまではとても不安でした。楽しみたいと言っておきながら、みんなに話しかけるのはすごく緊張して、すごく勇気が必要でした。けれど頑張って話しかけると相手も返してくれてすぐに打ち解けあうことができました。それは鹿児島の人たちも同じでした。こちらから話しかけると気さくに返してくれたり、あちらから声をかけてくれたりとみんな温かい人たちがかりました。また、鹿児島市の中学校の皆さんにも本当にお世話になりました。鹿児島城をはじめ鹿児島市の歴史につい

親の願い

「本当に勝手に育つかない」

関市立上之保小学校
 P T A 中島 健太郎

私は中学3年、小学6年、保育園年長の息子3人います。自分の子供以外にも、これまで私

士の「人のために働く」といった気持ちで鹿児島市の皆さんも持ち続けられているのだと感じました。僕も、これから生きていく上でこのような「人のために」という気持ちを大切にしたいです。

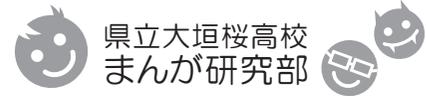
は地元のサッカー少年団で9年程コーチをさせていただいており、子供たちと多くの時間を共有してきました。

今回はその中で感じること、一人の親として葛藤していることをお伝えできればと思います。

今の子供たちを一まじめにすることはできないです。昔はどうであったかはわかりませんが、今の子供たちを見ていて、受け身の姿勢が多く、自分がこうしたいという考えや意見を持ちたり、伝えたりすることが苦手な子供が多いように感じています。

しかし、当然これは子供たちに責任がある訳ではなく、私たち保護者

や周囲の大人の責任なのではと考えるようになってきました。「子供は勝手に育つ」、昔からよく言われる言葉です。親が育児を放棄しても勝手に育つという意味では当然ありません。大人がサポートだけしてあげれば、子供は自分のことを自分で考え、選択し、実行していける子に育っていくという意味です。振り返ってみると、サポートのつもりが危険を排除するために、経験する機会を奪い、大人が考えた一番良いと思うものへ誘導し、子供たちの選択と考える余地を少なくし、思った通りの結果にならないと注意する、「過保護」「過干渉」になっていたのではないのでしょうか。その結果と



県立大垣桜高校
 まんが研究部

ゆきだるま



逆さ言葉

だるまはまるだ
 (ダルマは丸だ)

土屋 美賀 (関市)

して、子供たちが自分からやってみようではなく、親や大人からの指示を待つことが当たり前となっていくのかもしれない。

でもスポーツでも、水泳でも、ピアノでも小さい頃からやっておいた方が良いつて言うしな……。あつ、これも親のエゴである今、書きながら気が付きました。

子どもたちが興味のあることや好きなことをやっている時の集中力や上達スピードには驚かされたことが、何度もあります。大人も知らないような恐竜の名前や、車の名前まで憶えてしまうのですから。

では、どうしたら良いのか、正解は私にはわかりませんし、正解は無いのかもしれない。でもこれからの私は今までよりももう少し子供たちの選択にのんびりと向き合い、失敗する回数を増やしてあげたいなと考えています。

親になっても、まだまだわからないことばかりです、私の成長のためにも、子供たちと一緒に多くの失敗を重ねて、一緒に大きくなれたら幸いです。

「親の願いなど聞いている場合ではない」

岐阜市立東長良中学校
PTA会長 右高英一

2023年の流行語大賞のトップテンに「生成AI」が選出されたそう。ふと「スマホ」はいつ選ばれたのかと調べてみると2011年だった。そこから10年ちょっと経った今、街中を見渡すと若男女問わず前かがみになってスマホを覗いている。そして、「生成AI」が選ばれたということは、我が家の中学2年生が社会に出るころは誰もがAIを日常的に使っていると考えていることもできるのだ。いくつかの仕事がなくなり、新しい仕事が生まれていくかもしれない。どんな世の中になっているのか昭和生まれの私には想像もつかない。

今年、彼ら（双子なのだ）はいわゆる受験生となるのだが、果たして何も考えず受験勉強だけしていればよいのかと考えてしまう。今、世の中を見渡すと20年30年前

当たり前だったことがことごとく否定されてきている。学歴社会もそのひとつだ。昭和生まれからすれば、少しでも良い学校に行ってほしいとかつに願ってしまうのだ。だが、本当は的外れなんじゃないのだろうか。15歳という多感な時期に将来AIに任せればよいようなことをせつせと覚えても意味があるのだろうか。貴重な青春に得られる体験を逃してしまわないだろうかと様々なことが頭をよぎってしまう。

では、どんな大人になれば、これからの想像もできない社会を乗り越えていけるのだろうか。そのヒントは、身の回りで見つけれられるかもしれない。普段、さまざまなイベントなどにかかわらせて頂いている中でとてもいきいきとした人たちに出会うことがよくある。彼女らは、まずこれを任せるならあの人だというような得意分野がある。そして、ただそれだけに拘らず、軽々と異分野にも飛び込んでしまう。そんな軽快さを見ていると予測のつかない世の中に

教育の窓

受け継がれる地域の願い

東白川村立東白川小学校
教諭 渡辺仁

「子どもは村の宝」。昔から地域に根付いたこの言葉に、東白川村の方々の教育に対する情熱を感じ

ています。縁あって初任としてこの東白川村に赴任してから三十年、再びこの地に赴任させていただきましたが、やはりこの言葉は今も生き生きと輝き、この村の教育の柱となっています。

さて、現在、文部科学省は「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を推奨しています。「コミュニティ・スクールとは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組み、「地域」ともにある学校」のことであり、「地域」と一体となって「特色ある学校づくり」を進めていくというものです。

ここ東白川村は、以前から地域の教育力が高いと感じていましたが、その要因は昔からこの「コミュニティ・スクール」が確立され、継続した実践がなされているからだと思われました。

例えば、「田んぼの学習」「粘かけ体験」「お茶の学習」「トマトの学習」「森林学習」「しめ縄体験」「わが村探検」「全校登山」などの地域学習、「読み聞かせ」「戦争体験講話」などの学習支援、「あいさつ運動」「登下校の見守り」「放課後子ども教室」などの生活支援、「環境整備」「校内修繕」「生け花」などの環境支援などが挙げられます。また、「他県と

の交流活動」「大相撲観戦」「テーパールマナー研修」「緑化少年団」「クラブ活動」などの費用や校外学習におけるバス代などは、村の予算に組み入れ、支援をしてくださっています。

一方、子どもたちは「村の祭り」「郷土歌舞伎」「文化祭」「奉仕活動」「福祉活動」などの地域活動に、積極的に参加し、地域の活性化に一役買っています。また、「学習発表会」「運動会」などの場で、自分たちの頑張りを発信しています。地域の方々も、子どもたちと一緒に活動したり、その様子を見たりすることとても楽しみにしています。

このように、地域と学校が相互に関わる取組を充実させることが、子どもたちの「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という意識の高さにもつながっています。

「子どもは村の宝」として育てられた子どもたちは、その思いを引き継ぐ大人になり、現在は保護者や地域の方として学校教育に関わってくださっています。今、私が接している子どもたちも、きっと大人になったときには、何らかの形でこの村の教育を支えていく存在になっていくことでしょう。それを想像するだけで、とても楽しくなります。

美味



逆さ言葉

ごまたきやきたまご
(ごま炊き焼き卵)

林 伊武季 (加茂郡)

こうした活動は東白川村に限らず、多くの地域で「特色ある活動」として推進されています。地域の方々の願いを理解し、学校としての思いを伝え、地域と学校がより連携・協働しながら子どもたちを育てていきたいとあらためて感じました。

「妄想!!わが家の子育て五箇条」

中津川市立南小学校

教頭 松原元樹

スマホ育児、待機児童、ヤングケアラー、ネグレクト、子どもの貧困など、子ども子育てに関する社会問題について、ニュースで見聞きしない日はありません。このような状況の中、令和5年4月「子どもまんなか社会」をスローガンにこども家庭庁が発足し、こども基本法の下で、「こども大綱」の策定と「こども・家庭支援」、「こどもの貧困対策」などの施策が力強く推進されています。そんな社会情勢の中、本稿において私が頂いたテーマは、「教師の

立場から、子どもたちや保護者の姿から思っていること、感じていることについての家庭への提言」です。

結婚生活20周年を迎えたわが家は、「コウノトリにそっぽを向かれたため、「子育て」を経験しないまま40代を終えようとしています。執筆にあたり、妻の協力を得て、「理想の子育て」について話し合い、「妄想!!わが家の子育て五箇条」なるものを考察しました。未経験者の戯れ言に、しばしお付き合い願います。

- 一 子どもを叱らなくてもよい心の環境を整えます。
親の心の環境づくりです。忙しい毎日ですが、心に余裕をもって、子どもが自分でやるうとするまで待ちます。「早くしなさい!」ではなく、「一人でできかね」でわが子の自己有用感を育みます。
- 二 家族でたくさんの時間を共有します。
一緒に本を読む、ゲーム、スポーツをする、買い物に行く、長い休みには旅行に出かける。

家族でたくさん時間を共有する中で、わが子の可能性を見出し、育みます。

- 三 思いを言葉で伝えます。
おはよう、おやすみ、いつもありがとう、大好きだよ。:思いは、目を見て、直接、言葉で伝えます。学校でのできごと、職場でのできごと、地域での話題、どんなこともたくさん話します。絶対にごまかしや嘘はつきません。伝え合うことで、家族の絆とわが子のコミュニケーション能力を育みます。
- 四 お互い尊重し合います。
子どもは「未熟な大人」で、一人の人間です。互いに「どうしたいのか」を尊重し合うことで、思いやりの心を育みます。
- 五 たくさんふれあいます。
毎日、ぎゅっと抱き合います。お父さんも、お母さんも、子どもたちも、愛猫も、時間を見つけてはハグして、互いのぬくもりを感じ合います。そうすることで、家庭は安全なところ:心理的安全性を育みます。

わが子がいれば、家族というチームで「子育て」という超難度のミッションにあくせく挑んでいたのだと思います。

思えば、他人同士だった妻と20年という歳月をかけ紆余曲折を経て、家族に「なる」ことができました。その過程には、友人や職場の同僚の支えがありました。きつと、「子育て」もそうなのだろうと思うのです。最初から完成された「親」である人や理想の「親子」はいません。汗をかき、涙を流し、みんなでガハハと笑う。そんな時間を積み重ねながら、よき「親」や理想の「親子」に、じつくりと「なる」のでしょう。

「理想の子育て」は、妄想ですが、誰もがよき「親」や理想の「親子」に「なる」ことを支えていく社会をつくることに、私は力を尽くしたいと思えます。「こども基本法」には、基本理念として「家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること」とあります。そんな社会をつくりたいのです。

自分の思いを伝えられる子に

大垣市立川並小学校 PTA 古田 絵里

わが家には小学生と保育園児の子どもがいます。生活をしていく上で、①早寝、早起き ②食事はバランスよく食べる ③ゲームやテレビは1日2時間までなどその都度約束がありますが、言葉が話せるようになってから伝えていく約束は、「自分の思いは自分の言葉でしっかり伝える事」です。納得がいけないことがあると怒った表情で黙ったり、泣き続けたりしていても、「自分の気持ちを話さないと相手は分からないよ」と伝え、子どもなりに考えながら話してくれる言葉を丁寧に聞くようにしています。上手く言葉にできなかったときもありましたが、今では自分の思いをしっかりと伝えてくれ、忙しい平日もコミュニケーションがしっかりとれていることを感じています。子どもが大きくなると、親と話す回数も少なくなってくると思いますが、小さいときからの約束を忘れないうでいてほしいと願っています。



話そう!語ろう! わが家の約束

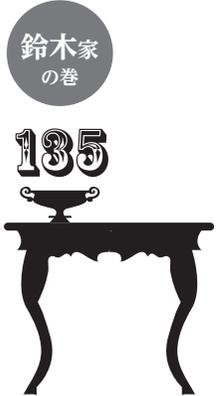
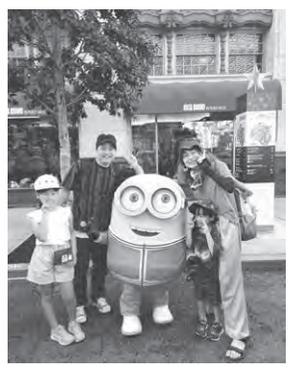
唯一小さな頃から大切にしている我が家のカタチは「今日、何が楽しかった?」という、良かったことを探す「ことば」の会話の流れ。

小さな出来事でも、ふと笑顔になれる経験を増やす魔法の「ことば」。

そして、家庭でも「親しき中にも礼儀あり」とあいさつが自然と出てくるようにと仕掛けてきたつもりではある。実際のところ、「ことば」の魔法が存分に発揮できるかは本人次第であり、この先の将来何かに迷う時は、ふと自分自身に優しくなれたらいいと願う。

現在、高校3年生、中学3年生に成長した子供たちは親バカと言われてしまうだろうが、とても優しい。また、とても仲が良い。

もちろん、日常生活の上で大切な整理整頓などは、未だフロンティアのままであるという。なかなかの逸材達ではあるが、自分らしく歩んでほしいと思う。



多治見市立南ヶ丘中学校 PTA会長 鈴木 奈保
「今日、何がたのしかった?」

ひな祭りちらし寿司

岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

3月3日はお雛祭り、「桃の節句」です。昔から食べられている行事食の「ちらし寿司」を、親子で楽しく作れるようにアレンジしてみました。すし飯と食材を好きなように盛り付けて、いつもと違うちらし寿司を作ってお祝いしてみてください。ガラスの容器に入れると、重ねた側面も見えるので、見た目が華やかです。今回は、下準備が少なく扱いやすい食材を選びましたが、海老や蓮根など好きな具を用意して盛り付けてみてください。子どもの健やかな成長を祝う行事食を親子で一緒に作ってみてはいかがでしょうか。

作り方

- すし飯を作る。Aの調味料をよく混ぜあわせて、炊きあがったご飯にまわしかけ、うちわであおいで冷ましながらか、切るように混ぜる。
- きゅうりは5mm程度の角切りやうすめのスライスにする。えだまめはゆでてさやから出しておく。かに風味かまぼこは8mm程度の角切りにする。※具材は、お好みの大きさ、形に切ってください。
- 炒り卵を作る。小さめの鍋に卵とBの調味料を入れ、よく混ぜてあわせから弱火にかける。弱火のまま混ぜながらゆっくり加熱し、卵が固まり始めたらずを4本にして、素早くかき混ぜ続ける。全体に火が通り、ぼろぼろとしてきたら、お皿やバット等に出して冷ましておく。
- 透明なガラス容器を用意する。①のすし飯を半量入れ、表面が平らになるように軽く押さえる。鮭フレークを全体に広げ、その上に残りのすし飯を重ね、軽く押さえる。
- 炒り卵、きゅうり、かまぼこ、枝豆をお好みで乗せ、飾り付ける。



材料

【材料】(4人分)

米(精白米).....	2合
米酢.....	大さじ3
A 上白糖.....	大さじ3
食塩.....	小さじ2/3
かに風味かまぼこ.....	4本
きゅうり.....	2/3本
卵.....	2個(Mサイズ)
上白糖.....	小さじ2
B 清酒.....	小さじ1
食塩.....	ひとつまみ
冷凍えだまめ(さや付き).....	50g
鮭フレーク.....	20g

●栄養価(1人あたり)

エネルギー.....	372kcal
たんぱく質.....	11.4g
脂質.....	4.6g
カルシウム.....	38mg
鉄.....	1.4mg
亜鉛.....	1.6mg
ビタミンA.....	62μgRE
ビタミンB1.....	0.12mg
ビタミンB2.....	0.14mg
ビタミンC.....	6mg
食物繊維.....	1.2g
食塩相当量.....	1.3g



3月号の

親子ではてな



Q1 ひな祭りで食べる「4色ひなあられ」に込められた思いはなんでしょう?

- ア 1年を通して幸せでありますように
- イ 心の美しい人になりますように
- ウ 将来の夢が叶いますように



Q2 「あかりをつけましょ ぼんぼりに〜♪ おはなをあげましょ もものはな〜♪」この童謡のタイトルは何でしょうか?

- ア たのしいひなまつり
- イ すてきなひなまつり
- ウ うれしいひなまつり



応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●3月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

1月号クイズ答え

Q1 イ Q2 ウ

1月号のクイズ当選者

深尾 美帆(岐阜市) 鈴木 怜実(郡上市)
小澤 煌平(各務原市) 玉腰百々子(郡上市)
木村 恵美(各務原市) 和田 夢望(郡上市)
松原 壮右(羽島郡) 平田 健人(加茂郡)
市村 優成(関市)

なぞなぞの答え

- ①鶏肉(取りにく!!)
- ②サッカー(引っ張ると「ー」で伸びるから)

稲羽東小学校は、今年百五十周年を迎える学校です。明治時代、前渡村にあった寺院「桃春院」を仮校舎にして「不惕学校」が創立され、その後、校舎や校名を変えながら現在に至っています。児童数百三十四名の小規模校です。

【戦時中から続く伝統の「茶摘み」】

本校の敷地周りを囲む生垣には、茶の木が植えられています。戦時中、生水を飲んでいた子どもたちの様子を見て「子どもたちの健康のため、沸かしたお茶を飲ませてやりたい」と願った大人たちが、百本ほどの茶の木を生垣として植えてくださったことが始まりと聞いています。現在、四百本あまりに増え、地域のボランティアの方が維持・管理に協力してくださっています。おかげで、成木となったお茶の木が今も立派に生垣の役割を果たしています。

この茶の木の新芽を全校の子どもたちや地域の方とで摘み取る五月に行う「茶摘み」は、本校の伝統行事になっています。当日は、お茶の木の歴史について学び、お茶の摘み方の講習をしたあとみんなで新芽を摘みます。今年の収穫量は二十九キログラムでした。製茶会社にお願ひして乾燥させた茶葉は、袋に詰め「やぐま茶」という名で子どもたちの家庭や日頃お世話になっている方に配ります。「今日のぼくの水筒のお茶は『やぐま茶』なんだよ!」とうれしそうに話しながら授業の合間に飲む子の姿に、お茶の木を植えてくださった方々への感謝の思いが募ります。

【地域講師の方から学ぶ「ふるさといなば」】

六年生の「ふるさと学習」では、私たちが住む稲羽地区の歴史について学びます。稲羽地区の歴史について研究しておられる地域の方に講師として来校いただき、写真や映像を見ながらお話を聞いたり、地域にある戦争の爪痕を一緒に見学に行ったりするなどの学習をしています。写真や映像、実物で知る戦争の悲惨さや、地域講師が語ってくださる稲羽の人々の生活の様子は、決して他人事ではなく、自分とつながりのある人たちが経験してきた出来事として、子どもたちの生きた学びにつながっています。戦闘機を隠すために山を削って造った大穴「掩体壕」を見学に行った子どもからは驚きの声があがりました。地域講師との学びは、子どもたちにとって「ふるさといなば」を知る素晴らしい経験になっています。

多くの方に支えていただきながら、子どもたちはふるさとについて体験的に学ぶことができます。これらの活動を通して、これからも、ふるさとに誇りをもって生きていく子どもたちが育つことを願っています。



稲羽東小学校校舎



▲昭和32年の茶摘みの様子



▲今年度の茶摘みの様子



▲地域講師との平和学習



◀地域講師との校外学習



▲戦闘機を隠すための大穴「掩体壕」

サツマイモ掘り体験

地域の環境保全隊の皆様が、毎年サツマイモ栽培をしてくださり、全校の子どもたちが「サツマイモ掘り体験」をさせていただいています。掘ったサツマイモはお土産として持ち帰りました。家族と一緒に調理をしたり、お芋掘りのときの話をしたりしながら、おいしくいただいたようです。



大きなお芋がたくさん掘れて、とてもうれしかったです。お母さんがフライドポテトにしてくれました。お芋ごはんも作ってくれて、家族みんなで食べました。とてもおいしかったです。

(2年生児童のインタビューより)

防災教育「いのちを守る訓練」



階段を下りるのではなく、上っています。これは、「水害訓練」の様子です。学校の立地条件や過去に発生した水害など、ハザードマップを使って学校の水害リスクを考え、毎年保育園の園児と合同で「垂直避難」を行っています。

事前・事後の指導では、教材を用いて水害に関する具体的な知識や心構えをつくる機会をもっています。「水は高いところから低い所に流れてくる」という認識のもと、訓練では、校舎3階への避難行動が身に付くよう、毎年行っています。

地震・火災発生時には、防火扉が閉まっていたり、障害物が散乱したりすることが想定されます。また、放送機器も使えないこともあります。それらを想定した訓練を実施しました。このような状況下で、子どもや教師はどう判断し行動するのかを問う訓練となりました。段ボールの障害物を仲間と協力してどけて避難する姿がありました。避難経路の防火扉が閉まっていたため階段を戻る姿があり、「おはしも」の「もどらない」について考え直しました。いざというときに自分の命を守る行動について学ぶ機会を大切にしていきます。



健康教育「親子歯磨き・歯磨き講習会」



PTA活動の一環で、毎年、歯科衛生士さんに講師として来ていただいています。

1年生は、親子で「歯ブラシの使い方」と「正しい磨き方」について教えていただきました。2～6年は、1年生と同様の内容と、むし歯のでき方やおやつ取り方、かむことの効果等についても教えていただきました。一人一人が、自分の歯磨きの仕方について振り返ることができました。

教育目標 願いをもち 笑顔で 共に歩む子
～学び合い 認め合い～



養基小学校養基保育所組合立養基小学校(やぎしょうがっこうやぎほいくしよくみあいらつやぎしょうがっこう)は、岐阜県揖斐郡池田町にある小学校。この学校名は、全国で2番目に長いそうです。揖斐川町と池田町の両町の子どもたちが通う、岐阜県唯一の組合立小学校です。

全校児童202名。「失敗は大歓迎」を合言葉として、一人一人が願いをもち、様々なことにチャレンジしています。仲間同士がお互いを認め合い、助け合って「笑顔」で学校生活を送っています。

卒業後は、基本的に池田町在住児童は池田町立池田中学校へ、揖斐川町在住児童は揖斐川町立揖斐川中学校へそれぞれ進学します。



養基小学校公式キャラクター「やぎめえ」

養基小学校創立150周年記念



11月25日(土) ゲストティーチャーの話

養基小学校の歴史を分かりやすく写真とお話で説明していただきました。親から子へ、子から孫へと伝統が引き継がれてきたことが分かりました。子どもたちは、150年という長い歴史を知り、先輩たちが大切にしてきた思いを、今の私たちも大切にしていきたいという感想をもちました。ボランティアティーチャーの方や家族にお話を聞いたり、本で調べたりしてまとめました。

- 1、2年生：昔の遊び
- 3、4年生：昔の食べ物・給食
- 5、6年生：昔の学校生活・学校行事

11月25日(土) 岐阜総合学園高等学校太鼓部の演奏

笛や歌も取り入れた太鼓の演奏は、とても迫力がありました。堂々と太鼓をたたく高校生の姿を見て、子どもたちは、あこがれを抱きました。演奏中のきれのある動きや、よく通るかけ声、表情豊かな姿にも感動しました。また、体験活動では、優しく笑顔で接してもらい、楽しく思い出に残る時間を過ごしました。

ソフトテニス部女子



テニス部女子は、全員がいつも笑顔で練習をしています。先輩と後輩の壁を越えて、仲間同士で声を掛け合い、練習に励んでいます。3年生が引退後には、1~2年生10人で活動しています。部員全員が未経験者ばかりですが、1本でも長くラリーが続くように技能を高め合っています。

また、試合では、今まで身に付けてきた練習の成果が発揮できるように頑張っています。

本校は、小規模校であるが故、生徒数が少ないのはもちろんのこと、教員の数も少なく部活動の数も限られています。運動部は、卓球部男女、バスケットボール部男子、ソフトテニス部女子、バレーボール部女子、文化部は、吹奏楽部の5つの部があります。

中学校の部活動では、生涯スポーツの基礎となる技能や知識、態度を身に付ける場として重要な役割を果たしています。さらに、各都道府県では、外部指導者によるクラブ化も進んでいます。

しかし、本校でクラブ化されている部活は、卓球部とバレーボール部女子のみとなっています。多治見市では、すでにクラブ化が進んでいますが、少しでも生徒に部活動に親しんでもらうために、まずは内部の環境を整えられるように努力しています。月予定や週予定を組む際に曜日によって、時程を変更して少しでも放課後の時間を作ったり、強化週間を設けたりして生徒の意欲を高められるようにしています。その結果、本校は、休み時間にはほとんどの生徒が外に出て、それぞれの部活種目で活動しています。少しずつ生徒の意欲も高まってきているので、能力を引き出せるように取り組んでいきます。

バレーボール部女子



女子バレーボール部は、3年生がいない中、2年生が主体となり、1年生に指導しています。また、自分たちで練習メニューを考えて活動しています。個人のスキルを向上させつつ、お互いを大切にしながら試合にも臨んでいます。さらに、大きな声であいさつをしたり、素早く行動したりすることを意識しています。また、礼儀作法も大切にしています。技能面はまだですが、楽しみを感じながらプレーをし、大会では少しでも勝ち進めるように頑張っています。本校では数少ないクラブ化している部です。私たちバレー部は、土曜日、日曜日にも参加している仲間もいて切磋琢磨しています。

卓球部



本校の卓球部は、先輩から引き継いできた伝統を守りつつ、且つ全員が楽しく活動しています。平日の練習の際には、昼休みから卓球台を準備し、一分一秒も無駄にしたいという気持ちで取り組んでいます。今年度は、中体連の団体で市内3位、東濃地区3位という結果でしたが、その結果に満足せず練習に打ち込んでいます。県大会では予選敗退という悔しい思いを味わったので、それをバネにさらなる飛躍を目指します。

今後は、部員も増やしていきたいと考えています。

吹奏楽部



吹奏楽部は、わずかなメンバーで活動しています。今年度は1年生が多く入部してくれたので、2~3年生も張り切っています。先輩は後輩に声をかけ教え合いをしています。特に苦手な子に対しては、丁寧に教えています。

また、活動時間が短いので、できるだけ準備の時間を短くして、楽器に触れられる時間が長くなるよう、努力しています。さらに、技能が高められるよう仲間同士で声をかけあって頑張っています。

バスケットボール男子



男子バスケットボール部は、中学校に入学してから始めた仲間が多い部活です。経験者が未経験者に教えながら活動しています。先輩と後輩の仲が良く、昼休みには、運動場のバスケットコートに集まり、夢中になって練習に励んでいます。

今年の目標は、精いっぱいやりきること、最後まであきらめずに試合に臨むことです。

私たちのPTA



地区懇談会



ジャンボリミッキー♪

芸術鑑賞会



安全マップ



安全マップ刷新の為、
通学路の危険箇所につつきりん



必要な箇所に補植をしています



緑の芝生！

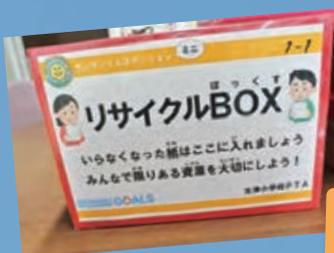


リサイクル活動

役員が手分けして分別しています



ドライブスルー形式を採用



各教室に設置のリサイクルBOX
「ミニサンサンくん」



いつもありがとうございます！

私たちの生津小学校

みなさん、富有柿（ふゆうがき）はご存じでしょうか？甘柿の王様とも呼ばれる、甘くて栄養豊富な美味しい柿です。瑞穂市は富有柿発祥の地とされており、生産が盛んです。給食ではデザートに地元産の富有柿、おかずには柿ソースになって出てきたりします。個人的におすすめの食べ方は、生の白菜と生の富有柿をマヨネーズと鰹節で和える柿サラダです。騙されたと思って是非作ってみてください！

生津小学校は30年前から英語教育推進事業の推進校となり、1年生から英語の授業を楽しく受けています。親より英語が話せます。実践的な教育を受けていて正直うらやましいです。

また、2010年に瑞穂市の事業の一環として校庭を芝生化しました。PTA会員のOB・OGなど有志で結成された芝生委員会と先生方の協力により維持管理されています。肥料の種類や夏場の芝刈り頻度を変える等の工夫をし、一番きれいに育つように試行錯誤しながら作業していただいています。

夏、一面に広がる緑の芝生は子どもたちや保護者みんなの自慢です。

子どもたちの喜ぶ顔を見たい

父親委員会が中心となって運営される「金属回収」PTA役員と父親委員、各地区子ども会が協力して行う「リサイクル活動」子どもたちが協力できる、各クラスに設置した「リサイクルBOX」

これらで得た収益は、子どもたちのためのイベント開催に使われています。イベントのひとつである芸術鑑賞会では、演奏会やサイエンスショーが行われ、目の前で見たり聞いたりすることの素晴らしさを伝えています。この胸の震える経験が子どもたちの宝物になっていくことを願っています。

子どもたちの笑顔を守りたい

毎年5月にPTAと子ども会協力により地区懇談会を開催しています。地域の方との意見交換の場として有意義な時間です。各地区の自治会長さんや役員さんを招待し、通学路の危険箇所や日頃の問題点などを通学班ごとに話し合いました。

毎年配布している安全マップでは、地区懇談会で出た意見も参考にしながら刷新しています。令和5年度は瑞穂市のマスコットキャラクター「かきりん」に手伝ってもらい、注意喚起の写真を取り入れました。

また、下校時間や夏休み中に、全PTA会員参加で安全パトロールをしています。

登下校時には地域の「見守り隊」の方々が危険箇所に立って、子どもたちを見守ってくださいています。

朝、子どもが家を出てからたくさんの方々の地域の方に見守られながら生活しているのだと、地区懇談会や見守り隊との連携を通して再認識できました。感謝の気持ちとともにこれからも大切にしていきたいと思っています。

これからのPTA

持続可能なPTAを目標にしています。

誰にでもできる活動

- ↓ 多様な生活スタイルの現代に合った活動時間や方法を模索
- ↓ LINEアプリを活用したWEB上での意見交換による対面会議の削減
- ↓ 必要な活動の見極め

誰にでもわかる内容

- ↓ 不明箇所がある既存資料の修正
- ↓ 暗黙のルールを明文化

何年かかっても、少しずつでもいい方向へ進むよう励んでまいります。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

中津川市立蛭川中学校



梅もぎ

50年前から続く伝統の梅もぎ。木から梅を落として拾い集めます。収穫した梅からジュースを作り、秋の祭りで販売します。



蛭川研修

1年生がふるさと蛭川をもっと知るために徒歩で名所を巡ります。県指定天然記念物になっている紅岩にも登っています。



PTA挨拶Week

生徒の登校時間に合わせて、春と秋に2回行っています。各地区で生徒の様子を見守りながら、さわやかな挨拶を交わします。



高齢者宅訪問

福祉推進校として地域の独居老人宅を訪問しています。夏休み前には暑中お見舞いの葉書を、冬休み前にはおせち料理を届けます。



MAIKA祭

蛭川地区の秋の祭りに、2年生も作品展示やボランティアスタッフとして協力します。梅ジュースの販売もここでを行います。



蛭川歌舞伎

総合学習の一環として、伝統芸能である歌舞伎に1年生を中心に取り組みます。地域の公民館(蛭子座)で披露します。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和5年度 春風号
第75巻5号 通巻480号

発行/令和6年3月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話/058(262)3257 FAX/058(262)3259
Eメール/info@gifu-pta.jp ホームページ/https://gifu-pta.jp
編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷/サンメッセ株式会社